
○評 価 表
○具体的取組状況
(H25)

〔 P2～P23 県立広島病院
P24～P38 県立安芸津病院 〕

4(2) 経営計画の取組状況

県立広島病院

1 評価表

2 具体的取組状況

(H25)

第4次広島県病院事業経営計画(平成21年度～25年度)における県立広島病院の主な取組状況

- 県立広島病院では、県の基幹的急性期病院として、高度医療、救急医療、地域医療支援などの政策医療を担っています。
- 第4次経営計画においては、特にがん医療、救急医療、周産期・母子医療を重点分野と定めて、医療機能の強化を図るとともに、人材育成・派遣機能の強化、患者サービスの向上などに取り組んで参りました。これらの取組により、経常収支の黒字化を達成し、医療機能の強化と経営の健全化という二つの使命を果たすことができました。
- 経営計画に定めた、各年度の目標数値についても概ね達成しています。
- 目標指標の達成状況

①医療機能

区分	旧指標	21年度	22年度	23年度	中間見直し後の指標	24年度	25年度
病床利用率	85%以上	83.7%	85.3% ☆	87.8% ☆	[H24] 89.9%以上 [H25] 91.4%以上	86.2%	87.0%
患者紹介率	65%以上	65.7% ☆	69.7% ☆	74.3% ☆	70%以上	78.8% ☆	82.8% ☆
逆紹介率	65%以上	70.7% ☆	70.7% ☆	68.1% ☆	65%以上	77.7% ☆	79.9% ☆
救急患者(車)受入数	1日平均16人以上	平均17.2人/日 ☆	平均19.1人/日 ☆	平均19.3人/日 ☆	[H24] 5,000台/年以上 [H25] 5,500台/年以上	4,644台/年	4,646台/年
NICU・GCU 患者受入件数	年間8,200人以上	8,422人/年 ☆	8,321人/年	9,144人/日 ☆	年間8,500人以上	8,899人/年 ☆	9,757人/年 ☆
がん登録件数	年間1,000件以上	1,721人/年 ☆	1,908件/年 ☆	2,269件/年 ☆	[H24] 年間1,550件以上 [H25] 年間1,600件以上	2,261件/年 ☆	2,245件/年 ☆
前期臨床研修医受入件数	20名以上	20名 ☆	20名 ☆	20名 ☆	20名以上	25名 ☆	28名 ☆
後期臨床研修医受入件数	50名以上	31名	20名	35名	50名以上	35名	34名
平均在院日数		—			13.0日	12.4日 ☆	12.0日 ☆
認定・専門看護師の 養成(病院事業全体)	毎年5名以上	5名 ☆	6名 ☆	4名	毎年5名以上	5名 ☆	5名 ☆

②経営基盤

区分	指標	21年度	22年度	23年度	中間見直し後の指標	24年度	25年度
経常収支	黒字化	黒字 (101.5%) ☆	黒字 (102.9%) ☆	黒字 (105.2%) ☆	黒字	黒字 (102.4%) ☆	黒字 (102.2%) ☆

※()内は経常収支比率

平成25年度における主な取組事項

- 引き続き、地域の医療機関との分担・連携による効率的な医療提供体制の確立に取り組むとともに、政策医療・高度医療などの医療機能の強化を図りました。

(具体的取組内容)

- ・ クリニカルパスの共有、KBネットによる電子カルテ情報の共有など、地域医療連携体制の強化
- ・ 救急医療、急性期リハビリ、ドクターヘリ事業への協力など、政策・高度医療の強化

経営計画の取組状況(H25)

1 広島病院評価表

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価	委員意見	
1 医療機能の強化							
1	救急医療機能の強化	脳・循環器系疾患の救急対応ドクターヘリへの運用協力・支援	救急外来の運用開始、東5病棟CCUの運用開始など計画で定める脳心臓系救急医療に関する項目を着実に実行した。 ドクターヘリ事業の協力病院として、事業開始に関与し、順調な運行に貢献した。	○	○	緊急手術件数は前年度と比較して増加しており評価できる。今後は救命受け入れ不能例の検討と対策に取り組んでいただきたい。 また、県のドクターヘリ事業への参画により広域の救急医療に貢献している点を高く評価する。今後の発展を期待したい。	
2	周産期医療提供体制の強化	NICUの増床等、成育医療センターの一層の充実を図る。	地域の分娩機能を有しない診療所を訪問し、総合周産期母子医療センターとしての当院の機能について周知活動を行った。	○	○	高齢出産・未熟児への対応や、セミオープンシステムによる分娩件数の増加、NICUも満床状態が継続するなど、総合周産期母子センターとしての役割をしっかりと果たしており、高く評価する。	
3	がん診療機能の強化	特色を生かした機能の充実	周術期口腔機能管理の件数が大幅に増加した。 病理医の増員と形成外科医の配置で診療体制を充実させた。	◎	◎	化学療法・放射線治療件数の増加、周産期口腔機能管理の充実、手術室の増加など、医療機能の強化充実を図るとともに、地域の医療水準向上に寄与する取組が行われている点を高く評価した。	
4	医療の安全と質の向上	電子カルテ、クリニカルパスの活用 チーム医療の充実	KBネットについて、接続医療機関数が増加した。 病院機能評価を受審し、何らの改善項目事項もなく認定を受けた。	◎	○	臨床評価指標の公表や、「KBネット」による地域医療連携などは、地域医療機関の医療の質的向上に大きく貢献している。「KBネット」については更なる充実を期待したい。 中国地区DMAT連絡協議会の実動訓練の実施、災害対応マニュアルや病院BCPの作成など、医療安全の確保にも積極的に取り組んでいるが、インシデント・アクシデントともに増加している点は、評価しがたい。	
2 医療人材の育成・派遣機能の強化							
5	人材の確保・教育・派遣	医師の確保・育成 勤務環境の改善	医師事務作業補助者の増員や職員意識調査の非常勤職員への拡大など新しい取組を開始した。	○	○	2年連続の初期研修医マッチング率100%や認定看護師・専門看護師試験への全員合格、研修医の定着率は高く評価できる。 今後は、薬剤師や臨床放射線技師等の医療技術職の認定資格取得を期待したい。	
3 患者サービスの向上と経営の効率化							
6	患者サービスの向上	利便性の向上 広報充実	施設改修を実施し、患者・家族の利便性の向上につなげた。 病院監修弁当の発売など病院の機能について発信する機会を設けることができた。	◎	○	医師と管理栄養士が監修した「健康弁当」の販売や、療養環境への気配りとアンケート分析などの取組は評価できるが、「患者サービスの向上」というテーマは常に改善する意識で取り組んでいただきたい。	
7	経営の効率化	増収対策	医業収益の増加策 未収金対策	DPC病院Ⅱ群へ向けて必要な体制を整備した。 未収金について回収の努力を継続し、年度末残高を減少させた。	◎	◎	政策医療や高度急性期医療の強化充実、診療報酬改定への適切な対応、患者負担の適正化など、積極的に増収策に取り組んでおり、評価できる。 DPC病院Ⅱ群への移行に向けて、同規模、同類病院との比較検討が必要と考える。
8		費用合理化対策	材料費、備品購入費の削減	全職種で協同し在庫管理の適正化、品目の見直しなどを実施し材料費の合理化を推進した。 災害に関する備蓄について見直しを開始した。	○	○	さまざまな診療材料費削減対策が講じられ、納入コストダウンや不良在庫への減少など一定の効果もみられる。 今後は単なる費用の削減にとどまらず、適正な物品管理などに努められ、費用の合理化を図っていただきたい。
9		経営機能の強化	弾力的な医療人材の採用・配置 職員の経営参画意識の醸成	BSCについて、情報の共有と導入の検討を行った。 新会計制度へ向けた準備を行った。	○	○	経営戦略会議や院長巡回、経営学研修などの実施により、職員の経営参画意識の醸成に努めている。

経営計画の取組状況(H25)

1 広島病院評価表

2 取組結果

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会 評価	委員意見
4 連携強化						
10	地域連携状況等	地域医療連携の推進	地区の医師会との懇談会の開催など新しい取組を開始した。 協定の締結など病院間の連携の取組を進展させた。	◎	◎	「KBネット」の運用や地区医師会との懇談会の開催など、病診・病々連携などの地域医療連携に精力的に取り組んでおり、その結果、高い紹介率・逆紹介率を維持している。
11	(2病院)協力状況	医薬品の共同購入 医療機能維持・質の向上へ協力	従前の取組を継続した。 安芸津病院からニーズのある病理診断連携について実務者レベルの協議を開始した。	○	○	医薬品の共同購入、医療職員の派遣、研究発表会・研修会の開催など、2病院間の連携は活発化しており、評価できる。 今後は安芸津病院の強みを取り入れることを検討していただきたい。
5 決算、目標指標						
12	収支改善、目標指標		計画で定める数値には届かなかったが、連続して経常収支の黒字を達成した。	◎	◎	5年連続の経常収支黒字を達成しており、高く評価できる。 目標に届かなかった後期研修医受入数の確保とその定着への取組を期待した。
総合評価					◎	広島県下のリーディングホスピタルとして、県全体の医療の最適化を念頭に、公共性と経済性を両立させていることは、高く評価する。 自らを厳しく評価し、大きな役割を責任感と使命感を持って病院経営に取り組んでいる姿勢は高く評価したい。今後も不断の経営努力を期待している。

I 医療機能の強化 ① 救急医療機能の強化

	H24	H25
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																																
<p>○救急患者受入体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日、夜間の救急患者のニーズに対応する。 	<p>○救急医療に関する指標</p> <p>救急患者全体の状況 単位:人</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> <tr> <td>救急車</td> <td>4,644</td> <td>4,646</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>2,726</td> <td>2,705</td> <td>-21</td> </tr> <tr> <td>救急車以外</td> <td>4,432</td> <td>4,760</td> <td>328</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>1,072</td> <td>1,135</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,076</td> <td>9,406</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>3,798</td> <td>3,840</td> <td>42</td> </tr> </table> <p>・救急車受入数: 4,646台(+2台) うちホットライン受入件数: 660件(+70件) ※参考: 受入困難事案(交渉回数4回以上)受入件数 広島市消防局管内 2,836件 うち、県立広島病院 498件(最多)</p> <p>・救命救急センター患者数 入院延人数: 6,818人(-618人) ※減少は救命センターから一般病床への転棟を促進したため 入院実人数: 1,878人(+23人) → 他病棟への転棟人数 1,361人 受入重篤患者数: 1,060人(-3人) ※参考: H24広島県内の救命救急センター(6か所)における重篤患者数 6,745人 うち、県立広島病院 1,063人</p> <p>○救急患者受入増への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修後の救急外来の運用開始 H25.4.1~ (152㎡→351㎡) ・「トリアージレジデント」の開始 H25.4~ ・※昼間の内科系救急について総合窓口となり診察後に各科へ振り分ける内科系後期研修医(当番制) ・※昼間の救急車(救急患者)受入を促進するため、救急外来運営部会を設置 H25.7~ <p>○緊急手術件数の推移 H23: 753 H24: 778 H25: 814(+36件)</p>	区分	H24	H25	増減	救急車	4,644	4,646	2	うち入院	2,726	2,705	-21	救急車以外	4,432	4,760	328	うち入院	1,072	1,135	63	合計	9,076	9,406	330	うち入院	3,798	3,840	42	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車の受入件数はほぼ横ばいで目標の5,500台には到達しなかった。 ・脳・循環器系疾患に関し東5病棟CCUの稼働や脳心臓血管センターの開設準備の取組を進めた。 ・ドクターヘリの運行に協力した。 ・総じて患者数は増加した。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳心臓血管センターの本格稼働 ・救急車の受入れ促進 ・ドクターヘリ搭乗者の養成 				
区分	H24	H25	増減																															
救急車	4,644	4,646	2																															
うち入院	2,726	2,705	-21																															
救急車以外	4,432	4,760	328																															
うち入院	1,072	1,135	63																															
合計	9,076	9,406	330																															
うち入院	3,798	3,840	42																															
<p>○脳・循環器系疾患の救急対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後増加が見込まれる循環器系疾患の救急患者に対応するための検討を行う。 	<p>○脳・循環器系疾患の救急対応に関する指標</p> <p>新規入院患者の状況 単位:人</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> <tr> <td>循環器系</td> <td>1,591</td> <td>1,667</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>脳神経系</td> <td>1,043</td> <td>1,001</td> <td>-42</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,634</td> <td>2,668</td> <td>34</td> </tr> </table> <p>アンギオに係る手術件数 単位:件</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> <tr> <td>経皮的冠動脈形成術など</td> <td>477</td> <td>549</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>脳血管内手術など</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>502</td> <td>576</td> <td>74</td> </tr> </table> <p>○脳・循環器系疾患の救急対応に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東5病棟CCU(心臓疾患集中治療室4床→8床)の運用開始 H25.8~ ・ハイケアユニット入院医療管理料の算定開始 H25.10~ ・脳心臓血管センター設置準備プロジェクトチームの活動開始 H25.12~ ・救急隊向け症例検討会の開催(2回) 脳: H25.8.29, 心臓: H26.2.3 ・日曜日でのリハビリテーション開始 H25.6.2~ 	名称	H24	H25	増減	循環器系	1,591	1,667	76	脳神経系	1,043	1,001	-42	合計	2,634	2,668	34	名称	H24	H25	増減	経皮的冠動脈形成術など	477	549	72	脳血管内手術など	25	27	2	合計	502	576	74	
名称	H24	H25	増減																															
循環器系	1,591	1,667	76																															
脳神経系	1,043	1,001	-42																															
合計	2,634	2,668	34																															
名称	H24	H25	増減																															
経皮的冠動脈形成術など	477	549	72																															
脳血管内手術など	25	27	2																															
合計	502	576	74																															
<p>○ドクターヘリへの運用協力・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクターヘリ運行開始(週3日が県立広島病院, 他の4日は広島大学病院) H25.4.12 ・ヘリ搭乗研修受講者 医師3人, 看護師3人 ・全体の運行回数372回, うち県立広島病院受入件数: 50件(H25.5~H26.3) <p>※参考: 広島大学病院受入件数: 74件</p>	<p>5</p>																																

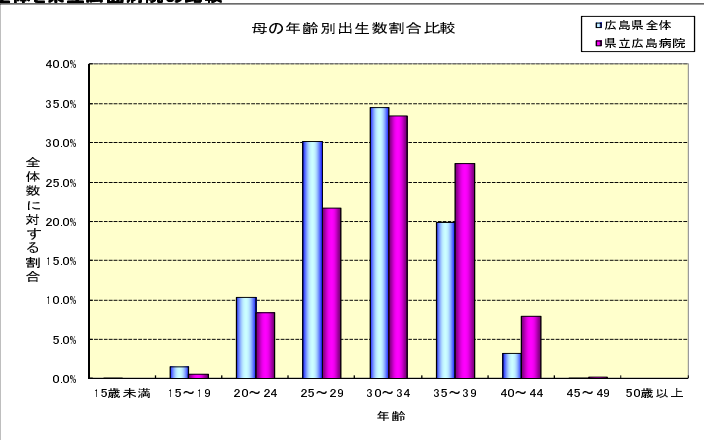
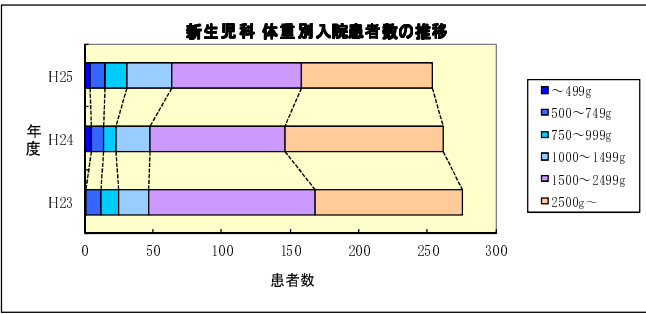
I 医療機能の強化 ② 周産期医療提供体制の強化

	H24	H25
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価												
<p>○成育医療センター本格稼働 ・NICUの増床等、成育医療センターの一層の充実を図る。</p>	<p>○周産期医療関係の指標 【産科】 ・分娩件数: 724件(-22件) ・緊急母体搬送受入件数: 119件(-10件), ハイリスク分娩管理加算件数169件(+6件) ・ハイリスク妊娠管理加算件数: 97件(+11件)</p> <table border="1"> <caption>新生児科 病床利用率</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>87.0%</td> <td>102.3%</td> <td>15.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新生児科】 ・NICU延患者数: 9,757人(+858人) 満床日数136日 ・新生児搬送受入件数(率): 54人(21%) (-6.5P)</p> <p>○その他の成育医療関係の指標 ・婦人科手術件数: 400件(+29件) ・小児外科手術件数: 255件(-21件) ・小児感覚器科外来患者数: 6,997人(+60人) ・生殖医療科採卵件数: 320件(+15件), 胚移植件数: 366件(-9件) 生殖医療セミナー開催件数6回, 参加者延289人 ・歯科口腔外科手術件数(先天性の口唇裂, 口蓋裂などに対する手術): 17件</p> <p>○成育医療機能充実への取組 ・生殖医療科 卵巣凍結保存技術の実用化 平成26年度から開始 ※若年の女性がん患者等が原疾患治療後に妊娠できるよう卵巣を凍結し保存するもの ・東7小児病棟 看護補助者を増員 H24:3人→ H25:5人 ※重度の障害をもつ児の看護体制の充実</p>	区分	H24	H25	増減	病床数	29	29	0	利用率	87.0%	102.3%	15.3	<p>■自己評価理由 ・分娩件数が減少傾向にある。 ・新生児の入院患者数が多く, NICUについて満床の状況が継続した。</p> <p>■課題 ・正常分娩も含めた分娩件数の増加 ・NICU3床の増床</p>
区分	H24	H25	増減											
病床数	29	29	0											
利用率	87.0%	102.3%	15.3											
<p>○安全な分娩体制 ・セミオープンシステムなどにより、病診連携による安全な分娩体制を確立する。</p>	<p>○安全な分娩体制に関する指標 ・セミオープンシステムによる分娩件数: 78件 全分娩中10.8% (+5件, +1.0P) ・助産外来患者数: 268人(-14人)</p> <p>○総合周産期母子医療センターについての広報・周知活動 西4病棟(産科病棟)助産師及び地域連携C職員が分娩機能を有しない産婦人科診療所を訪問し、センターの活動内容を紹介、診療所の要望を聴取(26施設)。</p>													

I 医療機能の強化 ② 周産期医療提供体制の強化



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																																																																																																		
<p>○成育医療センター本格稼働・NICUの増床等, 成育医療センターの一層の充実を図る。</p>	<p>○母親の出産年齢とその構成比較</p> <p>平成24年 母の年齢別出生数 広島県全体と県立広島病院の比較</p> <table border="1" data-bbox="622 496 920 703"> <thead> <tr> <th>年齢(年)</th> <th>広島県全体</th> <th>県立広島病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>15歳未満</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>15～19</td><td>391</td><td>5</td></tr> <tr><td>20～24</td><td>2,587</td><td>66</td></tr> <tr><td>25～29</td><td>7,507</td><td>171</td></tr> <tr><td>30～34</td><td>8,570</td><td>263</td></tr> <tr><td>35～39</td><td>4,960</td><td>216</td></tr> <tr><td>40～44</td><td>819</td><td>63</td></tr> <tr><td>45～49</td><td>11</td><td>2</td></tr> <tr><td>50歳以上</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>合計</td><td>24,846</td><td>786</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="622 730 920 938"> <thead> <tr> <th>年齢(年)</th> <th>広島県全体</th> <th>県立広島病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>15歳未満</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>15～19</td><td>1.6%</td><td>0.6%</td></tr> <tr><td>20～24</td><td>10.4%</td><td>8.4%</td></tr> <tr><td>25～29</td><td>30.2%</td><td>21.8%</td></tr> <tr><td>30～34</td><td>34.5%</td><td>33.5%</td></tr> <tr><td>35～39</td><td>20.0%</td><td>27.5%</td></tr> <tr><td>40～44</td><td>3.3%</td><td>8.0%</td></tr> <tr><td>45～49</td><td>0.0%</td><td>0.3%</td></tr> <tr><td>50歳以上</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>  <p>母の年齢別出生数割合比較</p> <p>※広島県全体は人口動態統計「出生」から、県立広島病院は医事システム算出データから取得</p> <p>○新生児科 体重別出生患者数の推移</p> <table border="1" data-bbox="622 1054 976 1369"> <thead> <tr> <th>体重</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>～499g</td><td>1</td><td>5</td><td>4</td></tr> <tr><td>500～749g</td><td>11</td><td>9</td><td>11</td></tr> <tr><td>750～999g</td><td>13</td><td>9</td><td>16</td></tr> <tr><td>1000～1499g</td><td>22</td><td>25</td><td>33</td></tr> <tr><td>1500～2499g</td><td>121</td><td>99</td><td>94</td></tr> <tr><td>2500g～</td><td>108</td><td>115</td><td>96</td></tr> <tr><td>合計</td><td>278</td><td>262</td><td>254</td></tr> </tbody> </table>  <p>新生児科 体重別入院患者数の推移</p>	年齢(年)	広島県全体	県立広島病院	15歳未満	1	0	15～19	391	5	20～24	2,587	66	25～29	7,507	171	30～34	8,570	263	35～39	4,960	216	40～44	819	63	45～49	11	2	50歳以上	0	0	合計	24,846	786	年齢(年)	広島県全体	県立広島病院	15歳未満	0.0%	0.0%	15～19	1.6%	0.6%	20～24	10.4%	8.4%	25～29	30.2%	21.8%	30～34	34.5%	33.5%	35～39	20.0%	27.5%	40～44	3.3%	8.0%	45～49	0.0%	0.3%	50歳以上	0.0%	0.0%	合計	100%	100%	体重	H23	H24	H25	～499g	1	5	4	500～749g	11	9	11	750～999g	13	9	16	1000～1499g	22	25	33	1500～2499g	121	99	94	2500g～	108	115	96	合計	278	262	254	<p>母親の年齢構成の割合を広島県全体と比較すると、県立広島病院は若年層よりも高齢層の母親が多い。</p> <p>全体数は減少傾向だが、1,500g未満の新生児が増加している。</p>
年齢(年)	広島県全体	県立広島病院																																																																																																		
15歳未満	1	0																																																																																																		
15～19	391	5																																																																																																		
20～24	2,587	66																																																																																																		
25～29	7,507	171																																																																																																		
30～34	8,570	263																																																																																																		
35～39	4,960	216																																																																																																		
40～44	819	63																																																																																																		
45～49	11	2																																																																																																		
50歳以上	0	0																																																																																																		
合計	24,846	786																																																																																																		
年齢(年)	広島県全体	県立広島病院																																																																																																		
15歳未満	0.0%	0.0%																																																																																																		
15～19	1.6%	0.6%																																																																																																		
20～24	10.4%	8.4%																																																																																																		
25～29	30.2%	21.8%																																																																																																		
30～34	34.5%	33.5%																																																																																																		
35～39	20.0%	27.5%																																																																																																		
40～44	3.3%	8.0%																																																																																																		
45～49	0.0%	0.3%																																																																																																		
50歳以上	0.0%	0.0%																																																																																																		
合計	100%	100%																																																																																																		
体重	H23	H24	H25																																																																																																	
～499g	1	5	4																																																																																																	
500～749g	11	9	11																																																																																																	
750～999g	13	9	16																																																																																																	
1000～1499g	22	25	33																																																																																																	
1500～2499g	121	99	94																																																																																																	
2500g～	108	115	96																																																																																																	
合計	278	262	254																																																																																																	

I 医療機能の強化 ② 周産期医療提供体制の強化



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○成育医療センター本格稼動・NICUの増床等, 成育医療センターの一層の充実を図る。</p>	<p>○新生児生存率・死亡率の状況</p> <div data-bbox="622 624 1267 1109"> <p>1000g未満児の生存率 (全国データベース&当院)</p> <p>周産期母子センターNRNデータベースより</p> </div> <p>500~1000gの新生児の生存率は、全国平均と比較して県立広島病院は高い。</p>	<div data-bbox="1346 619 1980 1125"> <p>1500g未満児退院時死亡率</p> </div> <p>全国の総合周産期センター96施設のうち、INTACT研究に参加した80施設での検討結果では、県立広島病院は11位、偏差値62であった。</p> <p>※INTACT研究 「周産期医療の質と安全の向上のための研究」 厚生労働省化学研究費補助金(地域医療基盤開発推進事業)</p>

I 医療機能の強化 ③ がん診療機能の強化

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○特色を生かした機能の充実</p> <p>・臨床腫瘍科や緩和ケア支援センターなどの特色を活かしながら、機能強化を図る。</p>	<p>○がん診療に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法実施件数: 6,078件(+334件) ・リンアック: 9,519件(+1,084件), RALS: 38件(-14件), 密封小線源(前立腺がん)24件(+1件) ・緩和ケア診療加算件数: 2,052件(+5件), 外来緩和ケア管理料算定件数135件(+79件) ・県地域がん登録件数: 1,897件(対目標+297件) ・消化管内視鏡手術及び検査の件数(胃, 大腸など)9,781件(+349件) ・がん相談件数: 743件, がんサロン開催件数: 12回 ・がんの手術件数(「悪性腫瘍」の名称が付く手術) 742件(+24件) ・5大がん連携パス登録医療機関: 436施設 ※H26.5.1 現在(+14施設) ・5大がん地域連携パス適用患者数 205件(+43件) <p>○がん診療機能強化への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周術期口腔機能管理の開始(H24.4~) <ul style="list-style-type: none"> がんの集学的医療の一環で手術, 化学療法, 放射線治療の患者に口腔ケアを実施 周術期口腔機能管理件数 H25 4,184件(+3,773件) ・形成外科専門医師の配置(1人) H25.4~ 年間手術件数 140件 ※形成外科: 身体に生じた組織の異常や変形, 欠損, あるいは整容的な不満足に対して, あらゆる手法や特殊な技術を駆使し, 機能のみならず形態的にもより正常に, より美しくすることを専門とする診療科 ・病理医の増員(1人) H25.10~ 併せて病理検査室を整備 ・がん診療に関連する認定看護師の育成 がん放射線看護 1人 ・がん医療従事者研修会の開催 合計8回, 院外延参加者数 381人 ・手術室の増設(1室) ※従来の手術室とは電気系統が独立し, 他室が計画停電時でも利用可能 ・がん総合医療センター(仮称)設置へ向け, 病棟の再編を実施 がん診療の専用病棟として, 東6病棟を指定 ・敷地内全面禁煙の開始 H26.3.31~ ・「広島医療圏がん診療連携拠点病院懇談会」の開催 H25.5.14 <ul style="list-style-type: none"> 懇談会の構成: 広島大学病院, 県立広島病院, 広島市民病院, 安佐市民病院, 広島赤十字・原爆病院 ・「がん診療連携拠点病院共催市民講演会」の開催 H25.10.26(講師として当院緩和ケア認定看護師が参加) ・高精度放射線治療センター 共同運用協定調印 H26.3.28 広島県, 広島市, 広島県医師会, 広島大学病院, 県立広島病院, 広島市民病院, 広島赤十字・原爆病院 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周術期口腔機能管理件数が大幅に増加した ・化学療法, 放射線治療の件数も増加した ・がん専用病棟として東6病棟を指定し, がんの集学的医療について準備を進めた <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん総合医療センター(仮称)の本格稼働 ・手術の強化 ・高精度放射線治療センターへの協力 ・がん相談の充実(医師による相談)

I 医療機能の強化 ④ 医療の安全と質の向上

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○電子カルテ、クリニカルパスの活用</p> <p>・電子カルテの有効活用を図る。</p> <p>・クリニカルパスの実施を推進し、診療情報を積極的に提供し、臨床指標を公表する。</p>	<p>○指標</p> <p>・クリニカルパス適用件数: 7,241件(45.0%)+278件, +1.7P</p> <p>・KBネット(県立広島病院地域医療連携ネットワーク)の状況、接続医療機関数: 171施設 ※H26.5.27現在</p> <p>※「KBネット」: 患者の同意を得て、県立広島病院の医療情報を接続医療機関からインターネット経由で閲覧できるシステム</p> <p>○取組</p> <p>・臨床評価指標の発行: 2012年版</p> <p>・事務局内の組織を再編し、「医療情報室」を設置。H25.4.1</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・災害対策について、中国地区DMAT訓練に参加し、院内訓練も実施した。</p> <p>・病院機能評価を受審し、改善項目の指摘なく認定を受けた。</p> <p>・その他医療安全、治験について新しい取組を実施した。</p> <p>■課題</p> <p>・DPC、医事データ、臨床指標などの分析</p> <p>・津波対策</p> <p>・電子カルテ次期リプレイス計画</p>
<p>○相談機能・地域連携の強化</p> <p>・患者及びその家族の不安・不満に対応するための相談窓口を設けるなど、相談機能の強化を図る。</p> <p>・地域の医療機関からの相談対応を充実させる。</p>	<p>○指標</p> <p>・医療機関訪問件数: 419件 ・病診連携カンファレンス開催件数: 2回</p> <p>・地域連携センターを経由した初診外来紹介患者数: 14,066人 ・相談件数 16,327件</p> <p>○取組</p> <p>・「地域連携センター」を改組し2室(地域連携・社会相談室、総合相談・がん相談室)を設置、患者相談室を増設(2室) H25.4.1</p>	
<p>○医療安全の確保</p> <p>・医療安全対策委員会、統括医療安全管理者、医療安全管理者を中心に、医療安全対策の徹底を図り、医療事故防止に努める。</p> <p>・広島県病院事業医療事故防止対策マニュアル及び院内感染対策実践マニュアルを改訂し、職員への周知を図る。</p> <p>・6S(整理・整頓・清掃・清潔・接客・節約)運動の更なる徹底を図る。</p> <p>・災害発生時対策、院内感染防止対策を徹底する。</p>	<p>○医療安全の確保に関する取組</p> <p>・医療安全対策委員会開催件数: 12回、医療安全に係る教育・研修27回 延3,249人参加</p> <p>インシデント報告件数: 3,167件(+642件)、アクシデント報告件数: 21件(+13件)</p> <p>・全部署の医療安全巡視回数: 3件</p> <p>・広島医療安全管理者ネットワーク会議の設立会議を主催 H26.1.22</p> <p>参加病院: 広島大学病院、広島市民病院、広島赤十字・原爆病院、安佐市民病院、国立呉医療Cなど(県内500床以上の急性期病院)</p> <p>・療養改善部会委員による院内巡視の実施(延べ9回)</p> <p>○災害発生時対策、院内感染対策に関する取組</p> <p>・基幹災害拠点病院運営委員会開催件数: 2回、DMAT研修6回、訓練: 8回、会議1回</p> <p>・平成25年度中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の実施<病院訓練会場> H25.11.9~10</p> <p>併せて院内災害訓練を実施 H25.11.9 参加職員57人</p> <p>・災害対応マニュアルの改訂 H26.3</p> <p>※南海トラフ地震発生を想定した被害状況の段階に応じて作成(BCPに相当)</p> <p>・感染症対策委員会開催件数: 12回、感染症に係る教育・研修: 25回 延3,537人参加</p> <p>・清掃委託業務の入札を総合評価方式へ切替 新契約H25.4.1~</p>	





I 医療機能の強化 ④ 医療の安全と質の向上



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価												
<p>○チーム医療の充実</p>	<p>多職種から成る次の6チームが院内で横断的に活動し、該当の項目について診療報酬を算定。</p> <p>○チームの名称と担当診療内容</p> <p>1 緩和ケアチーム : 疼痛管理、精神的な支援など</p> <p>2 栄養サポートチーム(NST) : 患者の栄養状態の改善</p> <p>3 褥瘡管理チーム : 褥瘡の予防、発生時の支援、マットレスの管理など</p> <p>4 糖尿病チーム : 糖尿病教育入院、外来糖尿病教室、フットケア外来など</p> <p>5 摂食・嚥下チーム : 口腔ケア、摂食嚥下療法、嚥下造影検査など</p> <p>6 呼吸器ケアチーム : 人工呼吸器の管理、脱着後の患者指導など</p> <p>○算定件数</p> <p>1 緩和ケア診療加算2,052件(+5件) 外来緩和ケア管理料135件(+79件)</p> <p>2 栄養サポートチーム加算1,653件(+632件)</p> <p>3 褥瘡ハイリスク患者ケア加算1,446件(-477件)</p> <p>4 糖尿病透析予防指導管理料72件(+12件)</p> <p>5 摂食機能療法 2,046件(-222件)</p> <p>○チーム医療の一員としての薬剤師業務の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調剤中心からチーム医療の一員として他職種との連携へ ・病棟薬剤業務 <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度新設の病棟薬剤業務について全病棟へ拡大へ向けて準備 ※病棟薬剤業務は、薬剤師が病棟で週20時間程度勤務し、薬剤の管理等を行う。 ・その他の薬剤業務 <ul style="list-style-type: none"> ・手術室における薬剤管理を実施 ・休日におけるIVH(中心静脈栄養)調整を実施 ・休日分定期注射の個別セット化試行開始 H26.6現在8病棟→全病棟へ拡大予定 ・薬剤師数と薬剤管理指導料の推移 <table border="1" data-bbox="629 1155 967 1241"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師数</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>指導料件数</td> <td>11,435</td> <td>13,004</td> <td>13,609</td> </tr> </tbody> </table> <p>※薬剤師数は、各年度4月1日現在の常勤職員数</p>	区分	H23	H24	H25	薬剤師数	23	25	24	指導料件数	11,435	13,004	13,609	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟薬剤業務の本格化 ・薬剤師の確保 ・治験の件数増加
区分	H23	H24	H25											
薬剤師数	23	25	24											
指導料件数	11,435	13,004	13,609											
<p>○治験支援室の設置等による治験・研究への取組の推進</p>	<p>推進体制: 医師1人(兼務)、薬剤師1人、看護師1人、事務職員1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治験30件(+6件)、製造後販売調査:119件(-20件)、副作用報告5件(-6件)、自主研究33件(+3件) ・治験等症例集積機能向上パイロット事業実施協定書の締結 H25.11.14 <p>(締結病院: 広島大学病院、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院、広島市民病院)</p>													

I 医療機能の強化 ④ 医療の安全と質の向上



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価												
<p>○病院機能評価の受審</p>	<p>○公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審 ・平成15年、20年に引き続き3回目の受審 ・受審日：H25.9.24～25の2日間 ・審査区分：一般病院2 ・審査結果：平成25年12月6日認定，改善要望項目なし ・“S”(秀でている)と評価された項目</p> <table border="1" data-bbox="616 598 1352 810"> <thead> <tr> <th>項目番号</th> <th>評価項目内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.2.3</td> <td>地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている</td> </tr> <tr> <td>1.4.1</td> <td>医療関連感染制御に向けた体制が確立している</td> </tr> <tr> <td>2.1.8</td> <td>患者等の急変時に適切に対応している</td> </tr> <tr> <td>2.2.14</td> <td>褥瘡の予防・治療を適切に行っている</td> </tr> <tr> <td>3.2.4</td> <td>手術・麻酔機能を適切に発揮している</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">○受審当日の状況</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="616 880 1104 1209"> <p>講堂での全体説明</p>  </div> <div data-bbox="1140 880 1563 1209"> <p>手術室</p>  </div> </div>	項目番号	評価項目内容	1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている	1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している	2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している	2.2.14	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している	<p>■課題 ・審査結果を踏まえた更なる改善</p>
項目番号	評価項目内容													
1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている													
1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している													
2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している													
2.2.14	褥瘡の予防・治療を適切に行っている													
3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している													
<p>○三強化分野以外の医療の質の向上への取組</p>	<p>○精度管理向上への取組 ・臨床検査制度管理調査への協力(3団体：日本医師会，広島県医師会，日本臨床検査技師会) ・精度保証施設認証 日本臨床衛生検査技師会，日本臨床検査標準協議会</p> <p>○特殊外来など ・ペインクリニック外来の実施(慢性的な痛み，がん性疼痛に対しての疼痛緩和治療を実施)</p>													

II 医療人材の育成・派遣機能の強化

⑤ 人材の確保・育成、派遣

	H24	H25
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○



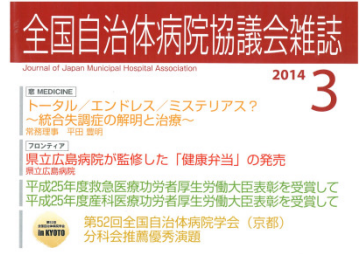

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																																														
<p>○医師の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学など教育機関との密接な連携、公募や民間コンサルティング会社の活用などにより、医師の確保に努める。 研修医(初期)の募集枠の拡大や医師研修プログラムの充実を図る。 	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修医マッチングの状況: 定員14人→決定14人 マッチング率100% 初期臨床研修医の広島県内への転出先割合: 県全体平均80.9%, 当院: 88.6%(31人/35人: 直近3年間) (広島県全体平均は平成24年度医師確保専門対策委員会資料、当院は直近3年間初期研修修了者数から算出) <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島卒後臨床研修ネットワーク説明会へ参加、レジナビ大阪へ参加 H25.7 後期研修医の派遣 似島診療所へ1人、3か月 庄原赤十字病院へ1人、3か月 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 勤務環境の改善に関し、新しい取組を実施した。(医師事務作業補助者の配置、職員意識調査の非常勤職員への拡大) <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師負担軽減策の推進(当直後の勤務時間、時間外緊急手術後の対応など) 実習用設備・トレーニング機材の充実 派遣に関する職員数の確保 																																														
<p>○看護師等コメディカルの確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定・専門看護師、専門薬剤師を計画的に養成する。 プライマリ研修プログラムなどにより、能力向上に取り組む。 	<p>認定看護師・専門看護師の養成: 4人受講(手術看護、新生児集中ケア、皮膚排泄ケア、慢性心不全: 全て合格)</p> <p>○認定看護師の資格取得状況 H26.7.7現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>集中ケア</th> <th>救急</th> <th>手術室</th> <th>緩和ケア</th> <th>がん性疼痛</th> <th>がん化学療法</th> <th>乳がん</th> <th>がん放射線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <th>分野</th> <th>新生児</th> <th>小児救急</th> <th>皮膚排泄ケア</th> <th>感染管理</th> <th>摂食嚥下</th> <th>脳卒中リハビリ</th> <th>認知症</th> <th>慢性心不全</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="8"></td> <td>合計</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>認定検査技師4人受講、認定薬剤師受講なし、放射線治療専門技師受講なし</p>		分野	集中ケア	救急	手術室	緩和ケア	がん性疼痛	がん化学療法	乳がん	がん放射線	人数	3	2	1	4	2	2	1	1	分野	新生児	小児救急	皮膚排泄ケア	感染管理	摂食嚥下	脳卒中リハビリ	認知症	慢性心不全	人数	3	1	3	2	2	1	1	1									合計	30
分野	集中ケア		救急	手術室	緩和ケア	がん性疼痛	がん化学療法	乳がん	がん放射線																																							
人数	3		2	1	4	2	2	1	1																																							
分野	新生児		小児救急	皮膚排泄ケア	感染管理	摂食嚥下	脳卒中リハビリ	認知症	慢性心不全																																							
人数	3	1	3	2	2	1	1	1																																								
								合計	30																																							
<p>○勤務環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者の配置等により、負担軽減を図る。 育児等に配慮した、女性医師の勤務条件の改善を検討する。 専任指導医の配置を検討するとともに、学会、セミナー等への参加機会を拡充する。 医師を始めとした、職員満足度の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者の配置 H25.5.1 15対1 63人 看護補助者の配置 一般病棟急性期看護補助体制加算 H24.10～ 50対1 育児短時間勤務制度の活用 H25 臨床工学技士1人、看護師36人、言語聴覚士1人 女性医師(女性職員)の勤務条件改善 「みらい保育所」の運営開始 H24.7～、病児保育の開始H26.1～ 「ママ友会」の開催 2回開催 ※育児休業中職員による子育てや仕事についての意見交換会 職員意識調査の実施(H25.10) 回答数: 851人 調査結果: 「活性化型組織」 25年度から非常勤職員も対象に(220人回答) 																																															
<p>○医療人材の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門有資格者等の地域医療機関への支援を充実させる。 へき地医療等の地域医療を担う人材の派遣機能の強化を図る。 	<p>○他病院への派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 安芸津病院(循環器内科5人、週5回 呼吸器内科1人、月1回)、神石高原町立病院(呼吸器内科、整形外科各2人、月2回)、JA尾道総合病院ほか8病院(延29日) 小児外科、精神神経科、眼科など <p>○代診医の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 大和診療所、甲奴診療所(各3回) <p>○助産師の派遣 藤東クリニック(1年間)</p>																																															
<p>○医療人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設のオープン化、実習受入れ、指導活動などにより、県立病院の持つ医療資源・機能を最大限発揮する。 	<p>・看護師派遣に関する意向調査の実施 H26.2</p> <p>※平成26年度から実施の看護師派遣について、受入先病院側の希望について意向を調査 市立三次中央病院へ派遣(2人) H26.4～</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護部からの講師派遣: 延べ75回 救急蘇生、感染症対策などの研修会へ派遣 32ページ「実習受入及び専門研修」を参照。 																																															

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化

⑥ 患者サービスの向上

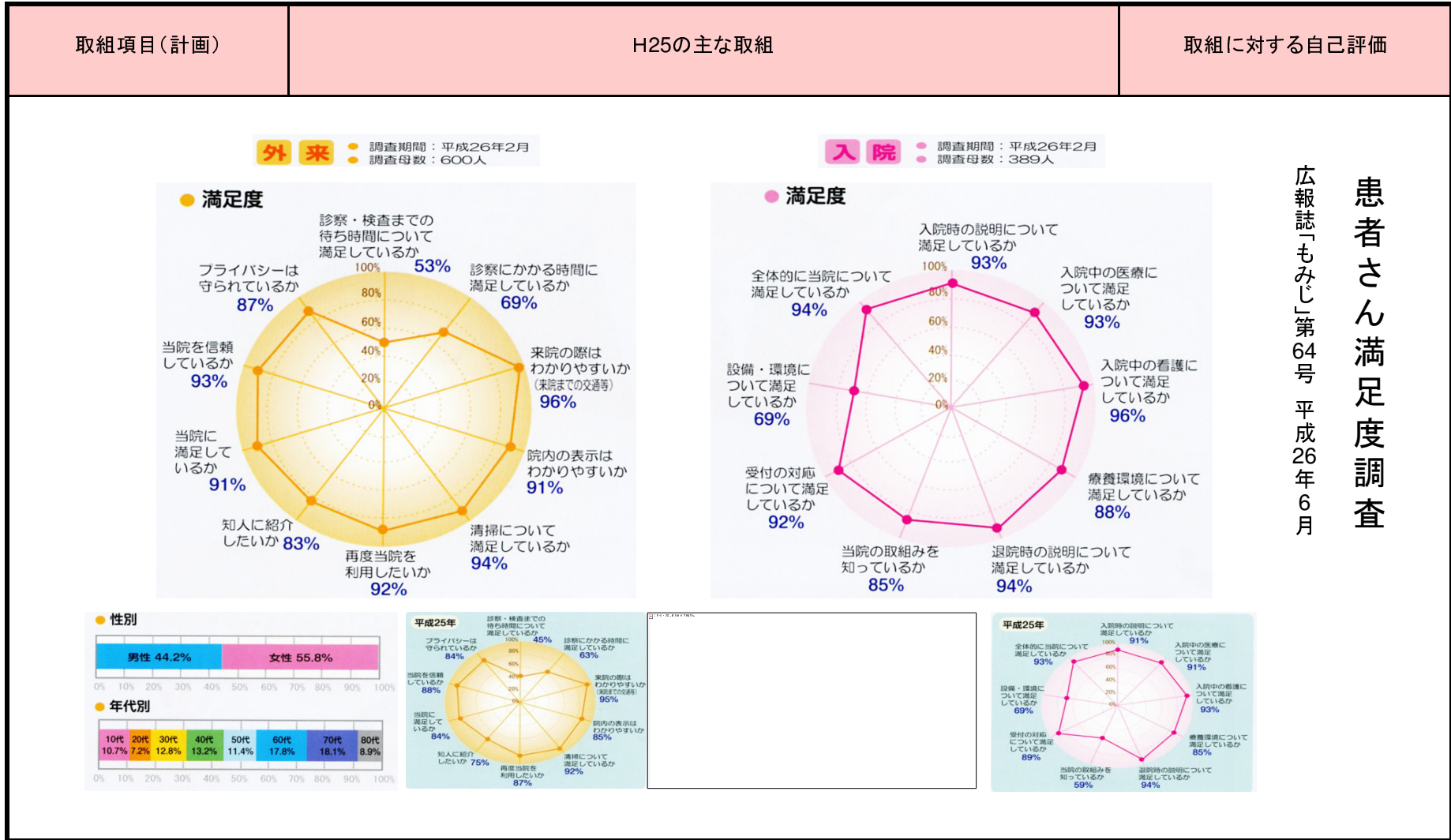
	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	○



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個室化や病床の改修を進め、患者の療養環境の向上に努める。 ・待ち時間の短縮や検査体制の充実等を図る。 ・入院センターの設置、利用者の視点に立った分かりやすい外来機能の検討等 	<p>○利便性向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の夜間冷房時間の延長(最大午前5時まで) ・南6病棟の浴室・トイレ改修整備 ・東7病棟での生体情報モニターとナースコールの連動の設定 ・単純CT・造影CTについて平日夕方の稼働延長を開始(19:15まで受付)。H25.4～ ・来院時の交通手段に関する調査(8月)及び待ち時間に関する調査(9月)の実施 ・院内コンサートの開催 セタコンサート H25.7.5,クリスマスコンサート H25.12.25 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設を改修し、患者・家族の利便性向上を図った。 ・待ち時間短縮、効率的な受診体制の整備へ向けて基本的な調査を実施した。 ・健康弁当など病院の活動や機能を紹介する機会を設けることができた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ内容の更なる改良  
<p>○広報充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機能、医療機器の医療情報を積極的に公開する。 ・救急医療の適切な利用など、医療に関する県民の理解を深めるための啓発を実施。 ・患者、地域住民への講演会等の開催し、モニター制度の導入を検討。 	<p>○広報充実への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回講演会の実施 28回開催 参加者延1,639人 ・県立広島病院の医師や管理栄養士が監修した「健康弁当」販売 広島県と包括連携協定を締結しているローソンから期間限定(H25.9.24～2週間)で販売 県知事の試食の写真が全国自治体病院協議会雑誌の表紙に採用 平成26年3月号 平成25年10月 広島県月間ベストプラクティス賞※受賞 ※県庁全部署から、他部署の参考となる取組を毎月募集 ・広報誌「もみじ」の発行 年12回発行(月刊) 	
<p>○患者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケートの定期的実施や患者意見書への対応状況の公表を実施。 ・職員の接遇の向上に努める。 	<p>○患者ニーズ取得への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケートの実施 平成26年2月に入院患者(救命救急センター及び緩和ケア病棟は除く)と外来患者を対象に実施。 サンプル数 入院患者:389人、外来患者:600人(紹介患者400人、非紹介患者:200人) ※結果概要は14ページ参照。 ・患者意見箱の設置 入院患者全員に記入用紙を配付する方式へ変更。 評価の意見、批判の意見を管理者会議で集約し、意見に対する回答を総合案内掲示板へ掲示。同時に該当する部門へフィードバックを実施し、更なる改善を促進。 ○職員接遇向上への取組 ・接遇研修の実施:1回開催 参加者延274人 	

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化

⑥ 患者サービスの向上



患者さん満足度調査
広報誌「もみじ」第64号 平成26年6月

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化

⑥ 患者サービスの向上



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																																								
<p>○患者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケートの定期的実施 ・患者意見書への対応状況の公表を実施 ・職員の処遇の向上に努める 	<p style="text-align: center;">○患者さんとの集い開催状況</p> <table border="1" data-bbox="607 480 1585 906"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>集いの名称</th> <th>活動の概要</th> <th>主催部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>バンビの会</td> <td>NICU退院児の家族交流会</td> <td>NICU, 新生児科</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>きりんさんの会</td> <td>在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会</td> <td>NICU, 新生児科</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>びあチアーズ</td> <td>脳卒中患者・家族の会</td> <td>看護部, 南2, 西8</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>糖尿病患者さまの集い</td> <td>糖尿病患者と家族の集い</td> <td>糖尿病チーム</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>元気の会</td> <td>小児慢性腎不全の子どもと家族の集い</td> <td>東7, 小児科</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>もみじの会</td> <td>小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ</td> <td>東7, 小児科</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ウロストメイト患者会</td> <td>オストミー協会会員, ウロストミー患者と家族の集い</td> <td>西5, 泌尿器科</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>がんサロン</td> <td>院内外を問わず, がん患者とその家族の集い</td> <td>地域連携科</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>茶話会</td> <td>緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い</td> <td>緩和ケア</td> </tr> </tbody> </table> <p>○H25.9.22 新東棟2F ウロストメイト患者会</p>  <p>○H25.9.26 がんサロン</p> 	No.	集いの名称	活動の概要	主催部署	1	バンビの会	NICU退院児の家族交流会	NICU, 新生児科	2	きりんさんの会	在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会	NICU, 新生児科	3	びあチアーズ	脳卒中患者・家族の会	看護部, 南2, 西8	4	糖尿病患者さまの集い	糖尿病患者と家族の集い	糖尿病チーム	5	元気の会	小児慢性腎不全の子どもと家族の集い	東7, 小児科	6	もみじの会	小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ	東7, 小児科	7	ウロストメイト患者会	オストミー協会会員, ウロストミー患者と家族の集い	西5, 泌尿器科	8	がんサロン	院内外を問わず, がん患者とその家族の集い	地域連携科	9	茶話会	緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い	緩和ケア	<p>■課題</p> <p>集いの継続と内容充実</p>
No.	集いの名称	活動の概要	主催部署																																							
1	バンビの会	NICU退院児の家族交流会	NICU, 新生児科																																							
2	きりんさんの会	在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会	NICU, 新生児科																																							
3	びあチアーズ	脳卒中患者・家族の会	看護部, 南2, 西8																																							
4	糖尿病患者さまの集い	糖尿病患者と家族の集い	糖尿病チーム																																							
5	元気の会	小児慢性腎不全の子どもと家族の集い	東7, 小児科																																							
6	もみじの会	小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ	東7, 小児科																																							
7	ウロストメイト患者会	オストミー協会会員, ウロストミー患者と家族の集い	西5, 泌尿器科																																							
8	がんサロン	院内外を問わず, がん患者とその家族の集い	地域連携科																																							
9	茶話会	緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い	緩和ケア																																							

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑦ 増収対策

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																							
<p>○医業収益の増加策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定や国の制度変更に対応し、各種加算の取得に努める。(医師、看護師等との診療報酬制度の情報共有含む) ・DPC解析ソフトの導入や民間コンサルティング会社による経営診断等を実施。 ・平均在院日数の適正化を図る。 ・救急患者の積極的な受入れや病連携の強化により、入院中心とした医療を提供。 	<p>○医業収益の増加策への取組</p> <p>○院内の体制整備により新たに算定可能となったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助体制加算 20対1→15対1 (H25.5.1～) ・ハイケアユニット入院医療管理料 4床→8床 (H25.10.1～) <p>○新たに施設基準が設定され、届出を行ったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工乳房及び組織拡張器(乳房用)使用 (H25.8.29～) ・ヒト自家移植組織(自家培養軟骨)使用 (H25.12.10～) <p>○DPC病院Ⅱ群へ向けての対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DPC評価委員会を発展的に改組し、DPC病院群評価検討委員会を発足 ・DPCⅡ群プロジェクトチームを立ち上げ、各診療科の診療内容を分析・検討 ・DPCデータ診療密度確保のためのコスト伝票入力の徹底(看護部記録委員会) <p>○平均在院日数:12.0日(-0.4日)</p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制強化、設備強化などにより新項目について算定を開始できた ・DPC病院Ⅱ群の参入へ向け院内で推進組織を構築することができた ・生殖医療について新技術を採用し実用化へ向け準備を整えた ・未収金の残高を減少させた <p>■課題</p> <p>DPC病院Ⅱ群への参入</p>																							
<p>○患者負担の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用料、手数料の新設、改定を実施。 	<p>○生殖医療に関する料金を新設(H26.4.1施行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵巣組織採取料、卵巣組織移植料、卵巣組織凍結保存料、Y染色体微小欠失分析検査料 ・※若年の女性がん患者等が原疾患治療後に妊娠できるよう卵巣を凍結し保存するもの <p>○その他消費税率改定に伴うものを改定</p>																								
<p>○診療報酬請求の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・請求漏れの防止や査定減対策に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保険診療に関する研修会の開催 講師:日赤血液センター土肥所長 H25.9.3 ・診療報酬請求対策委員会 H25.6, H26.2 2回開催 ・レセプト点検メモの発行 H25.6, H26.3 2回発行 <p>査定額, 査定率:22,754千円(+4,947千円), 0.119%(+0.022%)</p>																								
<p>○未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未収金の発生防止に取り組む。 ・未収金の回収対策を強化する。 	<p>過年度未収金の推移 単位:百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年度当初</td> <td>185</td> <td>174</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>回収額</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>前年度新規発生に対する割合</td> <td>76.9%</td> <td>130.8%</td> <td>136.8%</td> </tr> <tr> <td>年度末</td> <td>135</td> <td>123</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>新規発生</td> <td>39</td> <td>19</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>○未収金回収、発生防止に関する取組(H24～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収担当の嘱託員2人を配置 訪問・折衝による納付指導、所在不明者や相続人の調査を実施 ・司法書士法人への回収業務委託 ・入院窓口等による高額療養費制度の利用促進 			23年度	24年度	25年度	年度当初	185	174	142	回収額	50	51	26	前年度新規発生に対する割合	76.9%	130.8%	136.8%	年度末	135	123	116	新規発生	39	19
	23年度	24年度	25年度																						
年度当初	185	174	142																						
回収額	50	51	26																						
前年度新規発生に対する割合	76.9%	130.8%	136.8%																						
年度末	135	123	116																						
新規発生	39	19	21																						

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑧ 費用合理化対策


	H24	H25
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○材料費、備品購入費の削減 ・在庫管理の適正化の徹底 ・価格交渉の強化により医療機器購入費の削減を図る。 ・ジェネリック医薬品の利用を拡大する。 ・共同購入や品目・仕様の共通化</p>	<p>○費用合理化への取組</p> <p>1 事務局職員と医療職との情報共有による診療報酬請求漏れ等への取組</p> <p>・2週間ごとに電子カルテへの実施入力データと入力済の物品ラベルをSPD委託会社でチェックし、電子カルテに入力されていないものについては各部署に連絡し、入力漏れの防止に努めた。 → 電子カルテへの未入力率 H24運用開始時:7.2%→H25.3以降現在まで1%未満を継続</p> <p>・月毎の購入総額が50万円以上の物品について、診療報酬請求データと物品購入データを突合し、一致を検証 → 請求漏れはほぼ皆無の状況</p> <p>2 SPD委託会社と協力した定数の見直し、運用改善、診療材料の選定などの取組</p> <p><診療材料の運用改善></p> <p>・ラベル(カード)の紛失の可能性がある診療材料の所在確認を実施(毎月1回) 定数配置後に一定期間を経過してもラベル(カード)の実施入力がない材料について、ラベル(カード)の紛失を疑い、確認作業後ラベルを再発行→ラベル(カード)紛失による補充停滞を抑制</p> <p>・診療材料のセット化 症例に応じ使用頻度の高い材料を事前にSPD委託会社においてピッキングしセット化 → 診療現場でのピッキング業務負担(材料を選択し揃える作業)を軽減</p> <p>・入院外来収益に対する比率の推移(H25-H24) 薬品費15.68%(+0.63P), 診療材料費12.95%(+0.55P)</p> <p><診療材料の選定と購入方法></p> <p>・購入実績データに基づき、同種同等品の情報を入手し、多職種で協議後に競合による見積合わせを実施</p> <p>※診療材料の採用・見直しは単なる経済性の追求(償還価格に対する値引率などの追求、高額なものから安価なものへの切替)だけでなく、業務運用、医療安全など診療現場の意見を十分聴取した上で、診療材料管理運営委員会で決定</p> <p>○薬剤部運営委員会でのジェネリック薬品採用促進の取組</p> <p>・診療報酬(DPC)に後発医薬品係数が導入されることに伴い、薬剤部運営委員会で検討し、平成26年度から切替可能なものについて順次切り替えることを決定 H26目標:数量シェア60%の達成</p> <p>○基幹災害拠点病院として備蓄確保への取組</p> <p>・基幹災害拠点病院としての備蓄に関し、DMATメンバーとSPD委託会社が協力し現行の品目の見直しを開始 対象品目:重篤救急患者への救命医療材料, 感染対策用医療材料, 地域の医療機関への応急貸出材料</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・病院の全職種が協同し在庫管理の適正化、ジェネリック医薬品の採用促進、品目・仕様の共通化などの取組を実施し、材料費に関する合理化を進めた。</p> <p>・費用縮減だけでなく、基幹災害拠点病院としての役割からどのような在庫が適正かをSPD業者、DMATメンバーと協議し品目の見直しを開始した。</p> <p>■課題</p> <p>・採用品目数の合理化 ・部署間の定数品の貸し借りにかかる負担の軽減 ・高額医療機器の整備と優先順位 ・光熱水費の削減 ・ジェネリック医薬品の採用増加</p>

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化


経営の効率化 ～ ⑧ 費用合理化対策



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○経費の見直し ・委託内容、契約方法の見直しにより、委託料などの経費を節減する ・オフィスコストの更なる見直しの実施。</p>	<p>○経費の見直しの取組 ・<u>放射線機器保守契約の一本化・複数年契約への変更(H26.4.1)により、約11,000千円の経費節減</u> ・<u>電気・空調・ボイラー等設備保守管理及び運転業務委託総合評価一般競争入札を実施 H26.1～2</u> ・<u>事務局内週末のパソコン電源プラグ抜き運動の開始 H26.2～</u></p>	<p>取組に対する自己評価</p> 
<p>○施設・医療機器の計画的・重点的な整備 ・医療需要や採算性・効率性・優先順位等に留意した、計画的・重点的な整備を実施。</p>	<p>○施設・医療機器の整備 ・<u>手術室1室増室工事</u> ・<u>眼科用手術顕微鏡システム, DMAT車両, 経皮的心肺補助装置, 高圧蒸気滅菌装置 など</u> ・<u>南病棟の浴室・トイレ改修整備(南6), 受水槽・高架水槽緊急遮断弁設置工事 など</u></p>	

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑨ 経営機能の強化

	H24	H25
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○経営機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略会議の設置・運営など、経営体制の強化を図る。 外部評価委員会からの提言を踏まえた、PDCAによる改善取組継続 経営成績や医療ニーズに応じた予算の重点配分を行い、機動的な予算執行に努める。 弾力的な医療人材の採用・配置。 公募制、任期付職員の採用を実施。 	<p>○経営機能の強化への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院経営戦略会議の開催 毎月1回 基本病床の見直し H25.5～ 東6病棟をがんの専用病棟とするための必要な再配置(南4病棟と東6病棟の再配置) 病床管理部会の開催 毎月1回、ベッドコントロールミーティング 毎朝開催 ○ベッドコントロールミーティング <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※病棟師長の話し合いを促進する“見える化”の取組(ホワイトボードに病棟マップを掲示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先進的取組病院への見学 足利赤十字病院, 東海大学付属病院, 淀川キリスト教病院 など 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 新会計制度実施に向けての準備を進めた。 ベッドコントロールに関し、他病院を見学し、“見える化”の取組を開始した。 <p>■課題</p> <p>更なるデータ分析と活用 BSCの作成と活用</p>
<p>○職員の経営参画意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念、経営目標、経営情報、目標数値等を職員に明示し、共有を図る。 バランス・スコアカード等の導入を検討。 院内研修の充実や各種研修の受講機会の拡大を図る。 	<p>○職員の経営参画意識の醸成への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランス・スコアカードに関する管理者向け勉強会の開催 H26.1.8 ・職員3人を研修へ派遣 H25.12.7～8 副院長, 副看護部長, 事務職員 ・院長巡回説明会の開催: 院長が自ら病棟などの現場へ外向き病院の方針を説明 52か所実施, 参加人数延568人 ・特定非営利法人 日本医療経営機構 医療経営人材育成プログラム(5月～1月) 副院長級職員が平成24年度から毎年度1人受講 ・接遇研修の実施 H26.2.26 講師: 柏村武昭氏 ・新地方公営企業会計制度に関する勉強会の開催 H25.6.21 (病院事務職員へ県立病院課, 会計事務所から説明) 	

IV連携強化 ～ ⑩ 地域連携状況等

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
○地域医療連携の推進	<p>○地域医療連携推進に係る指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初診紹介患者総数21,127件(紹介率82.8%)-197件,+4.0P ・逆紹介患者総数15,608件(逆紹介率79.9%)+355件,+2.2 P ※5大がんの地域連携パス届出医療機関数:436施設※H26.5.1 現在(+14施設)【再掲】 <p>○地域医療連携推進に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KBネット*の運用開始:H24.9～ KBネット接続医療機関数171施設(H26.5.27現在) ※県立広島病院と各医療機関を結ぶ診療情報を共有するための地域医療連携ネットワークシステム ・地区医師会との懇談会の開催(2回) ①H25.6.28 江田島市 19人参加 ②H26.2.28 安芸地区31人参加 ※参加者数は地区医師会の医師数 ・病院間協定書の締結 広島圏域近隣の民間病院 シーサイド病院 H25.6.17, 広島厚生病院 H25.7.8 協定の内容:職員の研修, 診療援助, 患者の紹介・逆紹介 自治体病院 島根県立中央病院及び山口県立総合医療センターとの連携活動 H26.10.30 西中国県立中央病院情報交換会に参加(山口県立総合医療センター) ・治験等症例集積機能向上パイロット事業実施協定書の締結 H25.11.14 (締結病院:広島大学病院, 県立広島病院, 広島市民病院, 広島赤十字・原爆病院)【再掲】 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KBネット接続施設数が目標の160施設を上回った。 ・地区医師会との懇談会を実施し, 参加者から高い評価を得た。 ・民間病院, 近隣の大病院との協定締結など病院間での連携を進めた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続医療機関数の増加から利用促進へ(KBネット) ・更なる協定締結病院の増加 ・病院間協定内容の具体化 ・HMネットへの対応
○院外における諸活動	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が講師となる派遣 救急蘇生講習講師・インストラクター, 感染症対策, 緩和ケア, 小児看護 など 	
○実習受入及び専門研修	<ul style="list-style-type: none"> ・NST専門療法士研修会 院外参加者:10人(看護師, 管理栄養士, 薬剤師, 検査技師) 緩和ケア専門研修 医師, 看護師, 保健師, 薬剤師, ケアマネ, ヘルパー等 ・広島県看護職員復職支援事業 H25:2人受入 ・広島県新人看護職員研修事業 H25:15人受入 ・認定看護師の実習受入(緩和ケア, 新生児集中ケア, 摂食嚥下) 	

IV連携強化 ～ ⑪ (2病院)協力状況

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
○医薬品の共同購入	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の共同購入を実施 製薬メーカー毎のグループ化による卸1社契約を年間購入額上位20社に拡大。(H25.4.1) 院長・局長同席で、コンサルタントのアドバイスのもと、卸業者(6社/5回)・メーカー(18社/各1回)へのヒアリングを実施。 	<p>■自己評価理由 従前の取組を発展・継続した。 病理診断の連携について、実務者レベルの協議を開始した。</p> <p>■課題 遠隔診断 病理診断連携</p>
○医療機能維持・質の向上への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・広島病院がん性疼痛認定看護師を看護倫理研修会に講師として派遣(H26.2.20) ・広島病院臨床工学技士による医療機器整備・点検作業 推定削減効果額:2,931千円 ・広島病院臨床工学技士によるCHDF(持続的血液ろ過透析)治療に係る応援派遣,院内教育実施 ・安芸津病院と共同で備品購入(人工呼吸器) 推定削減効果額:1,900千円 ・安芸津病院検査技師をエコー検査実地研修のため受入れ ・広島病院主催の看護部研修会に安芸津病院職員が参加 県立病院看護研究発表会を共催(H26.2.22) ・病理診断連携の可能性について協議 H26.3～継続中 ・安芸津病院から小児循環器専門医師を広島病院へ週1回派遣(毎週水曜日午後) 	

V 決算・目標指標 ⑫ 収支改善・目標指標の達成

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	数値目標	取組結果(H25)	達成状況	課題・今後の取組
1. 病床利用率	91.4%	88.4%	未達成	<p>○課題・特記事項 計画で掲げる収支目標には少し届かなかったが、前年度に引き続き職員全体で経営改善に努め、連続して経常収支の黒字を達成した。</p> <p>○今後の取組 新しい計画に掲げる経営指標の達成へ向けて継続して経営改善活動に取り組むとともに、医療人材の育成、広島県の医療水準の維持向上に県の基幹病院としての役割を果たす。</p>
2. 紹介率	70%	82.8%	達成	
3. 逆紹介率	65%	79.9%	達成	
4. NICU・GCU患者受入数	年間8,500人以上	9,757人	達成	
5. がん登録件数	年間1,600件以上	2,245件	達成	
6. 前期臨床研修医受入数	20名以上	28名	達成	
7. 後期臨床研修医受入数	50名以上	34名	未達成	
8. 認定・専門看護師の養成	毎年5名以上 (安芸津と共通)	5名	達成	
9. 平均在院日数	12.8日	12.0日	達成	
10. 救急車受入数	年間5,500台	4,646台	未達成	
11. 財務指標	経常収支黒字の達成	458,732千円	達成	

県立安芸津病院

1 評価表

2 具体的取組状況

(H25)

第4次広島県病院事業経営計画(平成21年度～25年度)における県立安芸津病院の主な取組状況

- 県立安芸津病院では、高齢化が進む地域の中核的病院として、地域の医療ニーズに応える医療提供体制とし、地域住民の健康づくり、外来・入院医療の提供、在宅医療の支援などを、地域の医療機関や介護施設等と協力して取り組んでいます。
- 平成24年度には、医療需要調査・分析を踏まえ、役割と方向性を再構築し、地域の「健康寿命の延伸」をキーワードに、病気の予防から、治療、在宅への復帰まで、地域と一体となって地域住民の健康を支える取組を進めています。
- 経営計画期間中(平成21年度～25年度)の目標指標の達成状況は、未達成の項目が多いものの、計画策定時と比較すると各数値は改善傾向にあります。特に資金収支については、赤字額を217百万円あまり圧縮しています。
- 目標指標の達成状況

① 医療機能の確保

	指標	21年度	22年度	23年度	中間見直し後の指標	24年度	25年度
病床利用率	90%以上	78.6%	81.4%	74.8%		81.3%	83.7%
紹介率		—			15%以上	15.5% ☆	16.1% ☆
逆紹介率		—			15%以上	16.4% ☆	20.9% ☆
認定・専門看護師の養成(病院事業全体)	毎年5名以上	5名 ☆	6名 ☆	4名	毎年5名以上	5名 ☆	5名 ☆

② 財務内容の改善

区分	指標	21年度	22年度	23年度	中間見直し後の指標	24年度	25年度
資金収支	黒字化	赤字 (▲247百万円)	赤字 (▲282百万円)	赤字 (▲245百万円)	黒字化	赤字 (▲89百万円)	赤字 (▲30百万円)

※()内は資金収支額

平成25年度における主な取組事項

- 小児医療や二次救急医療機能を維持しつつ、地域との連携を深め、地域と一体となった医療提供体制の構築を図り、地域医療の確保と経営改善を図りました。
- (具体的取組内容)
 - ・検査、手術等の専門機能を発揮するため、内視鏡検査ステーションを設置するなど、医療提供体制を整備
 - ・医療公開講座の開催、地域イベントへの参加などを通じて、医療情報の発信や予防医療の普及啓発活動を実施

経営計画の取組状況(H25)

1 安芸津病院評価表

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価	委員意見	
1 医療機能の強化							
1	地域と一体となった医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○地域が一体となった相互補完医療体制の構築 ○医療情報の発信 ○在宅医療支援の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院理念・基本方針の再構築 理念「私たちは、地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします」 ○当院の有する専門性をより発揮するため「内視鏡検査ステーション」を立ち上げ⇒内視鏡検査約3割増 ○紹介率、逆紹介率の向上(目標達成) ○訪問看護・訪問診療の継続実施及び訪問リハ拡充 ○退院後72時間以内の電話訪問の実施 ○医療公開講座の開催、転倒予防体操の考案・普及啓発 	◎	◎	すべての職員の行動指針としての病院理念を「私たちは、地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします」と定め、地域と一体となった医療を、さまざまな視点から展開しており、特に退院患者のほぼ全員に電話訪問を実施し、在宅医療の支援を行っていることは、高く評価したい。	
2	政策医療の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○二次救急医療機能の維持・運営 ○小児医療の維持・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○医師確保が困難な中、広島病院、広島大学からの医師派遣も含め、医療機能・体制を確保するとともに、救急医療・小児医療の政策医療機能を維持 ○竹原・安芸津地区二次輪番体制の確保に加え、西条地区二次輪番空白日への協力 	○	○	限られた人的資源の中で、二次救急医療機能や小児医療の維持・増進に努力されており、評価できる。	
3	医療の安全と質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○電子カルテ、クリニカルパスの活用 ○相談機能・地域連携機能の強化 ○チーム医療の充実 ○医療安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療連携室の退院支援業務にかかる相談件数等の増加 ○緩和ケアチーム活動の充実(日本緩和医療学会認定施設登録) ○転倒予防に係る取組推進(学会発表、全国学会招致等) 	○	○	種々のチーム医療による活動を評価したい。今後はクリニカルパスの適用増加とそれを用いてのわかりやすい患者説明に努められたい。	
2 医療人材の育成・派遣機能の強化							
4	人材の確保・教育・派遣	<ul style="list-style-type: none"> ○医師の確保・育成 ○看護師等コメディカルの確保・育成 ○医療人材の派遣・育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○常勤医師・診療援助医師の診療体制を維持 ○理学療法士の1名増、診療情報管理士の新規配置 ○看護師、理学療法士等の実習受入の継続 ○外科、整形外科、小児科医師の派遣継続による県内の医療水準向上に貢献 	◎	◎	常勤医、非常勤医、理学療法士、診療情報管理士の確保について、一定の成果が得られており、評価できるが、まだ受け身の姿勢が感じられる。	
3 患者サービスの向上と経営の効率化							
5	患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○利便性の向上 ○広報充実 ○患者ニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○内視鏡検査や健診・人間ドック受入体制の整備 ○入院時身の回り品セット導入による緊急受入等の円滑化 ○ホームページリニューアル、病院パンフレット作成等による広報充実 	◎	○	入院準備の軽減のための「入院セット」の導入による利便性の向上や、病院HPの更新、オリジナルTシャツの制作による広報活動は評価できるが、患者意見をみると取組が不十分な面もある。医療公開講座や出前講座については回数の増加を望みたい。	
6	経営の効率化	増収対策	<ul style="list-style-type: none"> ○医療収益の増加策 ○患者負担の適正化 ○診療報酬請求の改善 ○未収金対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○病床利用率81.3%⇒83.7%へ向上 ○時間外における未収金の発生防止対策や司法書士法人への委託による未収金回収の強化 	○	○	過去10年間で最高の病床利用率や、入院単価、内視鏡検査件数、手術件数、栄養指導件数の増加などにより、前年度比7千万円の増収となっており、取組の成果が出ていると評価できる。今後は病床利用率90%を最低限の目標として取り組んでいただきたい。
7		費用合理化対策	<ul style="list-style-type: none"> ○材料費、備品購入費の削減 ○経費の見直し ○施設・医療機器の計画的・重点的な整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○広島国際大学との連携した新たな在庫管理システムの構築による在庫管理業務の合理化 ○複数年契約の導入やコンサルの協力を得た価格交渉などにより医療機器の導入コストや保守委託費用を縮減 ○後発医薬品の採用拡大による薬品費の縮減 	○	○	さまざまな診療材料費削減対策が講じられ、効果も生じていることは評価したい。今後は、単なる費用の削減だけではなく、適正な物品管理に取り組むなど費用の合理化に努めていただきたい。
8		経営機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○経営機能の強化 ○職員の経営参画意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○重点取組を踏まえて病院組織目標を設定、全職員対象に説明会の実施 ○訪問看護体制を3名→2名に再整理し、看護師1名を内視鏡検査ステーションへ配置(H25.4～) 	○	○	コンサルによる医療需要調査やモデル病院の視察などをもとに、病院の組織目標を設定するなど、経営機能の強化に努めている。初診比率、紹介入院比率、病棟別平均在院日数等の提示・共有化を望みたい。

経営計画の取組状況(H25)

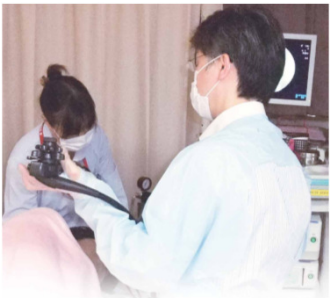

1 安芸津病院評価表

2 取組結果

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会 評価	委員意見
4 連携強化						
9	(2病院)協力状況	○医薬品の共同購入 ○医療機能維持・質の向上への協力	○臨床研修医の受入を継続 ○薬品等の購入など2病院共同によるコスト縮減 ○広島病院からの診療応援の継続、安芸津病院小児科医師の派遣(小児循環器)	○	○	医薬品の共同購入、職員派遣、研修会の開催などによる病院間の交流は評価できるが、2病院の強みの共有となっているか不明である。 地域を守る病院としてのアピールを期待したい。
5 決算、目標指標						
10	収支改善、目標指標		○目標達成は紹介率や逆紹介率など一部の項目のみで、収支目標は未達成 ○一方、病床利用率は2年連続で前年を上回る83.7%になるなど取組効果が表れてきている ○H26年度からの次期計画での目標達成に向けて、更なる経営改善に取り組む	△	○	資金収支の黒字化をはじめ、目標指標は達成できていない項目があるものの、前年度比約6千万円の収支改善などは一定の成果が上がっているものと評価したい。 地域の中核的な病院として、病床利用率については、90%を目指して取組を進めていただきたい。
総合評価					○	厳しい環境の中で、大変努力され、限られた人的物的医療資源を効果的に活用しながら、地域特性を反映した医療機能の発揮に努めていることは評価できる。 また、地域包括ケアの取組が効果を上げつつあり、今後もその中核病院としての役割を果たしていくことを期待したい。 一方、収支改善に関しては十分でない面が認められるので、継続的な改善に努めていただきたい。

I 医療機能の強化 ～ ① 地域と一体となった医療の提供

	H24	H25
自己評価	○	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○地域医療機関の補完体制の構築</p> <p>取組体制は記載省略 体制見直しによる変更があったものは、右の主な取組に記載する。</p>	<p>○病院理念・基本方針を病院全体で再構築 理念「私たちは、地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします」</p> <p>○当院の有する専門性をより発揮するため、「内視鏡検査ステーション」(H25.4～)を立上げ ・経鼻内視鏡の増設及び更新 ・他院からの紹介手続きの簡略化・円滑化の実施 } 検査件数 H24:1,529件 ⇒ H25:1,969件 約3割増</p> <p>○安芸津地区開業医(3施設)との意見交換会の実施(2回) 紹介率 H23:10.5% ⇒ H24:15.5% ⇒ H25:16.1% 逆紹介率 H23:8.9% ⇒ H24:16.4% ⇒ H25:20.9%</p> <p>○連携先医療機関への訪問(安芸津地区3施設、大崎上島町5施設)</p> <p>○医師紹介冊子作成、地域の医療機関等に配布(H25.6～)</p> <p>○あきつほっと安心ネットワーク※への参画(4部会への参加、座長は当院事務長) ・認知症・防災対策の講演会を実施 ※病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設、消防、社協、包括支援センター、住民団体等が集まり、住みやすい地域づくり活動を行っている。</p> <p>○地域医療機関等に開放した医療従事者向け研修会の開催(感染対策、認知症対応、摂食嚥下など計12回)</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・地域の開業医との関係強化に向けた取組により、紹介率及び逆紹介率は平成24年度に目標を達成し、平成25年度も引き続き増加した。</p> <p>・これらにより病床利用率は2年連続で前年を上回り過去10年で最高の83.7%となるなど、徐々に効果が出てきている。</p>
<p>○医療情報の発信 ・地域の疾病動向に対応した、医療情報の発信を積極的に行う。</p>	<p>○全国から参加する「転倒予防指導者養成講座」の勝致・開催(5/25)、合わせて市民を対象とした転倒予防に関する講演会の実施(5/25、ほっと安心ネットワーク共催)</p> <p>○転倒予防体操「転倒なしのサンバ」の考案・普及啓発</p> <p>○医療公開講座の開催(6/8大崎上島:240名参加、11/23安芸津地区:183名参加、3/8安芸津地区:141名参加)</p> <p>○大崎上島町へのがん検診啓発講演会への講師派遣(12/13、東邦亜鉛)、地域サロンへの出前講座(計5回)</p> <p>○地域イベントでの啓発活動の実施 「健康福祉まつり(ふれあい夏祭り)」及び「火とグルメ安芸津フェスティバル」での健康・医療ブースの設置</p> <p>○広報誌発行(年4回)</p> <p>○団体の広報誌での医療情報の提供(安芸津社協だより:6回、大崎上島町広報誌:12回)</p>	<p>内視鏡検査ステーションの設置</p>  <p>転倒予防体操の考案・普及啓発</p> 
<p>○在宅医療支援の推進</p>	<p>○円滑な在宅療養に向けた支援等</p> <p>・退院前訪問の実施(H24:12件 ⇒ H25:19件)</p> <p>・退院後72時間以内の電話訪問の実施により不安な在宅療養生活をフォロー</p> <p>※ H25年からは退院後の電話訪問を原則全員に実施(H24:84件⇒H25:514件)</p> <p>・介護支援事業者等の介護支援専門員とのケアプランの作成等に係る連携(介護支援連携指導料加算 H24:115件⇒H25:129件)</p> <p>・外部の介護支援専門員等も交えたケアカンファレンスの開催(H24:287件⇒H25:378件)</p> <p>○訪問看護件数(H23:1,379件 ⇒ H24:1,596件 ⇒ H25:1,798件)、訪問診療件数(H23:65件 ⇒ H24:75件 ⇒ H25:72件) 訪問リハ件数(H23:99件 ⇒ H24:97件 ⇒ H25:113件)</p> <p>・H25～の訪問リハ拡充等に向けた体制整備(H25.4から理学療法士1名増)</p> <p>○地域包括ケア推進機構のチームケアモデル事業の実施</p>	<p>88</p>

I 医療機能強化 ～ ② 政策医療(救急・小児)の実施

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																
○二次救急医療機能の維持・運営	<p>○竹原市の2病院とともに、竹原・安芸津・大崎上島地域の二次救急輪番体制を維持 あわせて西条地区二次輪番空白日への対応協力</p> <p>○救急車受入件数 320件(+2件)</p> <p>○救急からの入院件数 508件(+85件)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車 (うち入院)</td> <td>318 (191)</td> <td>320 (196)</td> <td>2 (5)</td> </tr> <tr> <td>救急車以外 (うち入院)</td> <td>2,929 (232)</td> <td>2,748 (312)</td> <td>▲145 (80)</td> </tr> <tr> <td>合計 (うち入院)</td> <td>3,247 (423)</td> <td>3,104 (508)</td> <td>▲143 (85)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H24	H25	増減	救急車 (うち入院)	318 (191)	320 (196)	2 (5)	救急車以外 (うち入院)	2,929 (232)	2,748 (312)	▲145 (80)	合計 (うち入院)	3,247 (423)	3,104 (508)	▲143 (85)	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西条地区の二次輪番空白日への協力など可能な範囲で地域の二次救急医療機能の維持に貢献した。 ・緩和ケア外来、低侵襲手術・治療など、地域に不足する医療に対し、積極的に取り組んだ。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急医療機能及び小児医療機能を維持するための必要医師の継続的な確保
区分	H24	H25	増減															
救急車 (うち入院)	318 (191)	320 (196)	2 (5)															
救急車以外 (うち入院)	2,929 (232)	2,748 (312)	▲145 (80)															
合計 (うち入院)	3,247 (423)	3,104 (508)	▲143 (85)															
○小児医療の維持・運営	<p>○H24.4より、常勤医1名+非常勤の2名体制を確保。(H21～H23は常勤医1名体制)</p> <p>○呉医療センターや県立広島病院への、当院医師の毎週1回ずつの派遣により、都市部における専門的な小児医療(小児循環器)への協力。</p> <p>○大崎上島町保健事業への協力(小児健診へ小児科医師を派遣(H25:4回/年))</p>																	
○その他	<p>○外科医師増員(H24年度～2→3名)、整形外科診療援助医師(週1回、H25.9～)確保などによる体制強化 ⇒手術件数の増 対前年約2割増(H24:306件 ⇒ H25:376件)</p> <p>○腹腔鏡手術システムの更新や内視鏡システムの更新等 ⇒内視鏡による治療(早期胃がんや大腸がんに対するEMR(内視鏡的粘膜切除術やESD(内視鏡的粘膜下層剥離術、ポリープ切除等)件数の約7割増(H24:48件 ⇒ H25:82件)</p> <p>○メディカルクラーク(H25.4～)の配置による整形外科診療体制の充実 ⇒医師の事務負担等が軽減したことで外来診療が円滑化、待ち時間の短縮や手術件数の増加。(人工関節手術件数 H24:64件→H25:82件)</p> <p>○緩和ケア外来(毎週水曜)の実施及び緩和ケアチームの設置 ⇒広島中央医療圏は、東広島医療センターと当院のみ。 ⇒当該医療圏は県内で最も10万人当たりの緩和ケアチーム数が少ない。 ⇒H25.10日本緩和医療学会認定施設に登録(県内の登録施設は9施設)</p>																	

I 医療機能の強化 ③ 医療の安全と質の向上

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価																																
<p>○電子カルテ、クリニカルパスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテの有効活用を図る。 ・クリニカルパスの実施を推進し、診療情報を積極的に提供し、臨床指標を公表する。 	<p>○電子カルテの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者数、検査・処置等の件数など病院の運営状況を随時把握し、課題分析や対策の検討を速やかに行い、会議等で情報共有できる体制を整備。 <p>○クリニカルパスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型のパスから目標達成型(アウトカム志向)のパスへの改善取り組み ・電子カルテでのパス稼働件数 14種(内科 9種、外科 2種、整形外科 3種) クリニカルパスの適用件数:225件 適用率16% ※H26.4.1~H26.6.18の適用件数:41件(11.8%) ・平成26年度は、パス分析・修正重点を置き、パス運用が2年経過した5種を修正し、追加は2種の予定。 昨年度から引き続き、クリニカルパス活用のため広島病院から講師を招聘し、院内研修を開催。 	<p>■ 自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徐々にではあるが、クリニカルパスの適用件数を増やししながら、電子カルテを活用した取組を進めている。 ・緩和ケアチームの活動の充実など、目に見える成果が出始めている。 <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床面やデータ活用など電子カルテの更なる有効活用に向けたシステムの改修等 																																
<p>○相談機能・地域連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者及びその家族の不安・不満に対応するための相談窓口を設けるなど、相談機能の強化を図る。 ・地域の医療機関からの相談対応を充実させる。 	<p>○中央玄関入口付近に医療相談窓口と総合案内を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ～医療相談窓口には、医療メディエーション研修履修看護師を配置(3名、H24.2～) ～総合案内では、職員が毎日患者等に対応し、案内、相談、苦情受付などを実施(平日の午前中) <p>○病診連携への体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ～地域医療連携室3名体制の維持(H23.4～専任看護師+1) 地域ケア会議等へ参加(H22.4～) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連携先医療機関との意見交換会開催</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>連携先医療機関への訪問</td> <td>延13施設</td> <td>延12施設</td> <td>延11施設</td> </tr> <tr> <td>地域医療連携室の退院支援(相談)件数等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・患者相談</td> <td>948件</td> <td>1,573件</td> <td>1,848件</td> </tr> <tr> <td>・医療機関、施設等</td> <td>829件</td> <td>808件</td> <td>1,908件</td> </tr> <tr> <td>・ケアマネ</td> <td>1,130件</td> <td>1,423件</td> <td>1,669件</td> </tr> <tr> <td>・介護支援連携指導料(300点)</td> <td>98件</td> <td>115件</td> <td>129件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○安芸津地域ケア会議の当院開催や県地域包括ケア推進センターの「チームケアモデル事業」の実施など、地域包括ケア構築への取組みに参画</p> <p>○安芸津地域のふれあいサロン等に参加～安芸津病院の情報を提供、住民の不安・相談に対応 5件/年</p> <p>○あきつほっと安心ネットワーク(安芸津地域ネットワーク会議)に参加(H22.4～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ～安芸津町の医療・福祉の事業所等との連携深化に努めている。 (具体的効果等:ネットワークの活動(お薬手帳の普及、認知症サポーター養成などの取組)が新聞で紹介されるなど、関係者との連携強化だけでなく住民の健康・福祉の向上に取組む病院のPRにもつながっている。) <p>○安芸津地域の「福祉まつり」や「火とグルメ安芸津フェスティバル」に病院ブースを設け医療・健康情報の提供とともに相談に対応。また、地域の一員としてステージにも出演。</p>		H23	H24	H25	連携先医療機関との意見交換会開催	2回	2回	2回	連携先医療機関への訪問	延13施設	延12施設	延11施設	地域医療連携室の退院支援(相談)件数等				・患者相談	948件	1,573件	1,848件	・医療機関、施設等	829件	808件	1,908件	・ケアマネ	1,130件	1,423件	1,669件	・介護支援連携指導料(300点)	98件	115件	129件	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸津地域では、地域連携・地域包括ケアに向けた具体的な取組みの芽が出つつあるが、離島である大崎上島町では、地域包括ケア体制の構築は具体的な取組みとなっていない。 ⇒ 町・包括支援センターとの協議に加え、県地域包括ケア推進機構との連携を始めたところであり、今後、島しょ部・沿岸部での連携のモデルとなる体制構築に取り組みたい。
	H23	H24	H25																															
連携先医療機関との意見交換会開催	2回	2回	2回																															
連携先医療機関への訪問	延13施設	延12施設	延11施設																															
地域医療連携室の退院支援(相談)件数等																																		
・患者相談	948件	1,573件	1,848件																															
・医療機関、施設等	829件	808件	1,908件																															
・ケアマネ	1,130件	1,423件	1,669件																															
・介護支援連携指導料(300点)	98件	115件	129件																															

I 医療機能の強化 ③ 医療の安全と質の向上



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○チーム医療の充実</p>	<p>多職種から成る次の5委員会・チームが院内で横断的に活動している。</p> <p>○委員会・チームの名称と担当診療内容</p> <p>1 褥瘡対策委員会 : 褥瘡の予防, 発生時の支援, マットレスの管理など</p> <p>2 NST委員会 : 患者の栄養状態の改善</p> <p>3 糖尿病教室運営委員会 : 糖尿病教育入院, 外来糖尿病教室, フットケア外来, 糖尿病ミニ講座など</p> <p>4 感染症対策チーム : 院内感染の防止など(地域での活動も強化し, 施設職員等も対象とした研修や, 施設への訪問指導, 相談対応など, 地域全体の感染対策への取組みを推進)</p> <p>5 緩和ケアチーム : 疼痛管理, 精神的な支援, 緩和ケア外来など(H24.9.1立ち上げ, 対象19例, 週1回カンファレンス, 毎週水曜に外来診療)</p> <p>H25.10日本緩和医療学会認定施設に登録(県内の登録施設は9施設)</p>	
<p>○医療安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策委員会, 統括医療安全管理者, 医療安全管理者を中心に, 医療安全対策の徹底を図り, 医療事故防止に努める。 ・災害発生時対策, 院内感染防止対策を徹底する。 ・広島県病院事業医療事故防止対策マニュアル及び院内感染対策実践マニュアルを改訂し, 職員への周知を図る。 ・6S(整理・整頓・清掃・清潔・接客・節約)運動の更なる徹底を図る。 	<p>○医療安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策委員会及びセーフティマネジメント部会(それぞれ12回/年) ・医療安全ラウンド(5S活動)の実施(H25: 3回[改善件数10件]) ～各部門で目標設定, 自己評価 ・院内医療安全研修会の実施 H25: 4回, 延137人参加 ・KYT推進のための患者教育DVD放送(転倒防止) ・医療安全情報, 医薬品安全情報の発信及び医療安全標語による意識啓発 12回/年 ・委託職員も含めた全職員による医療安全週間での取組 (標語: 整えよう療養環境, つくりあげよう作業環境) ・医療安全標語による意識啓発 ・インシデント報告(H24:399件 ⇒ H25:302件) ・アクシデント報告(H24: 2件 ⇒ H25: 1件) <p>○転倒予防による医療安全への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業が開発した「転倒予防靴下」を使用した予防医療に係る効果の研究や学会での発表 ・全国学会である「転倒予防医学研究会」が主催する「転倒予防指導者養成講座」の誘致(東広島市, H25.5.25～5.26) ・養成講座の開催と合わせ, 同学会の代表世話人である東京大学名誉教授を講師として, 安芸津生涯学習センターで市民向けの転倒予防講演会も実施 ・職員手作りによる転倒予防体操「転倒なしのサンパ」の考案・普及 	

II 医療人材の育成・派遣機能の強化

④ 人材の確保・育成, 派遣

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医師の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学など教育機関との密接な連携、公募や民間コンサルティング会社の活用などにより、医師の確保に努める。 ・医師研修プログラムの充実 	<p>○広島大学に対し、欠員医師の確保や診療科充実のための働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科医師の増(H24.4～) ・小児科診療体制の維持(常勤医1名と非常勤の2名の体制を確保(+1名), 24年4月～) ・婦人科の診療日の増(H24.7～, 月2回⇒週1回) ・整形外科手術応援定期派遣の開始(H25.9～, 週1回) ・県立広島病院からの循環器内科の応援派遣体制の見直し H23: 2か月交替での派遣 ~ 患者から診察の度に新しい医師だと不評 H24: 広島病院と協議の上、曜日固定の5名1チームの派遣へ見直し ⇒外来: 曜日固定で同じ医師が診療 入院: 循環器内科のチームで診療 ○県立広島病院臨床研修医の地域研修受入開始(H23.8～) 研修期間1か月×計3名(H25) ・総合診療医としての知識の修得 ・地域医療の体験(安芸津病院医師の専門性を活かした研修内容とする) ・指導医の育成 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣(H23.9～, 8名) 	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24年度に拡充された外科医師1名増体制や小児科診療体制の維持、あるいは整形外科診療援助体制の拡充(週1回)など医師確保については、一定の成果が出ている。 ・このほか理学療法士の1名増、診療情報管理士の新規採用などコメディカルの確保についても一定の成果が出ている。 ・H24年度に育成した認定看護師による地域の医療施設等を対象とした研修会の実施など、地域全体の医療水準の向上に貢献している。
<p>○看護師等コメディカルの確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定・専門看護師、専門薬剤師を計画的に養成する。 ・プライマリ研修プログラムなどにより、能力向上に取り組む。 	<p>○認定看護師養成研修派遣(H24: 摂食・嚥下障害看護, H26: 感染管理認定看護派遣予定)</p> <p>○理学療法士の1名増(3人⇒4人体制へ, H25.4～)</p> <p>○診療情報管理士の新規配置(H25.2～)</p> <p>○認知症ケア専門士資格取得(看護師3名)</p>	
<p>○医療人材の派遣・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣病院への診療支援 ・実習受入れ 	<p>○ 関連病院への医師派遣(整形外科及び外科・手術指導, 小児科: 小児循環器診療) を継続 外科⇒三原市医師会病院(H24: 10回⇒H25: 2回), 整形外科⇒済生会呉病院(H24: 6回⇒H25: 8回), 小児科⇒呉医療センター, 県立広島病院(H24年度から, 各病院週1回ずつ)</p> <p>○ H24に育成した認定看護師による地域の医療施設等も対象とした「接触・嚥下研修会」(5回シリーズ)の開催</p> <p>○ 地域の医療施設等も対象とした研修会の開催 12件(地域からの参加者延66人) 上記「摂食・嚥下」のほか医療安全, 感染対策, 認知症対応, 緩和ケアなど</p> <p>○ 看護師, 理学療法士等の養成に係る実習の受入れ継続 看護師 H23: 延183人・日, H24: 延426人・日, H25: 延399人・日 理学療法士 H23: 延94人・日, H24: 延123人・日, H25: 延78人・日, 栄養士 H24から 延15人・日 看護職員復職支援事業(実地研修)への協力</p> <p>○救急救命士実習受入 H24: 延18人・日, H25: 延24人・日</p> <p>○ふれあい看護体験(高校生) 5人, インターンシップ(大崎海星高校)受入 1人×3日</p> <p>○人材育成は広島病院と一体で育成(広島病院の認定看護師を講師とする院内研修会実施など)</p>	

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化

⑤ 患者サービスの向上

	H24	H25
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	○



取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個室化や病床の改修を進め、患者の療養環境の向上に努める。 ・待ち時間の短縮や検査体制の充実等を図る。 	<p>○病室環境の整備 ～ 病棟の暑さ対策のため空調運転期間・時間の弾力的運用及び遮光カーテンの取り付け</p> <p>○療養環境の整備 ～ 空調機器の改修、各階トイレへの杖立てや手荷物置きを設置、シルバーカーの追加設置</p> <p>○より快適な内視鏡検査の受診のため、内視鏡前室の整備や検診・ドック受診者の待合室(健康管理室)の整備</p> <p>○入院時の身の回りの準備等の負担を軽減するため、衣類等のレンタルと歯ブラシ・石鹸等の消耗品を一括して貸与する入院セットの導入。(H26.2.1～)</p> <p>○インフルエンザ患者の診察にあたって、感染からより短時間で検査可能な迅速検査機器を導入</p> <p>○地産地消の入院食(例:安芸津のじゃがいも・日本酒(ゼリー)、大崎上島のレモン・しいたけ等のほか「ひろしま給食100万食プロジェクト」に協賛したメニュー提供など)、看護師等による患者の誕生日のお祝い</p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢・独身世帯が多いという患者のニーズに対応した「入院セット」の導入は患者からも評価を得ている。 ・病院パンフレットの作成、ホームページのリニューアル、あるいは職員の提案によるオリジナルTシャツの作成など積極的な情報発信を行った。
<p>○広報充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機能、医療機器の医療情報を積極的に公開する。 ・救急医療の適切な利用など、医療に関する県民の理解を深めるための啓発を実施。 ・患者、地域住民への講演会等の開催し、モニター制度の導入を検討。 	<p>○医療講座や広報誌の発行(4半期毎約千部)、寄稿(大崎上島町広報、社協だより)の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療公開講座 計3回(安芸津2回、大崎上島町1回) ・出前講座(H25:5件)、院内ミニ講座(糖尿病やペースメーカーなど)の実施 <p>○病院パンフレットや内視鏡検査ステーション設置・検診体制拡充にかかるパンフレット作成、各種がんにかかる病院オリジナル啓発チラシの作成</p> <p>○病院ホームページのリニューアル</p> <p>○地域と一体となった健康づくり・病院づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内クリスマスコンサートの開催(継続) ・安芸津病院を支援する会役員が広報・患者サービス向上委員会に出席(H22.12～毎月1回) ・地域住民も参加した病院周辺のボランティア清掃(2回/年)や地域の美化活動への病院職員の参加 ・ほっと安心ネットワークや地域団体などが主催する健康づくりのためのウォーキングに病院として参加(7回) <p>○安芸津病院オリジナルTシャツの制作(職員手作りのロゴマーク入り)。院内外の活動時に着用し病院をPR</p>	
<p>○患者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケートの定期的実施や患者意見書への対応状況の公表を実施。 ・職員の接遇の向上に努める。 	<p>いただいた意見等については、課題について関係部署で協議するとともに、対応や結果を広報・患者サービス向上委員会で報告</p> <p>病院環境整備や接遇等の向上、委託業者への指導などに活用している。</p> <p>○患者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院患者は常時実施(回収率78.1%) 病棟全体で集計し、課題については関係部署も含め対応を検討 【例】院内の説明表示の改善、冷房時間の延長、歩行者・シルバーカーの増設など <p>○患者意見箱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病棟やロビーに常設 ・対応済みものはロビーに掲示(投稿者のプライバシーに配慮) ・「お褒め」について、模範例は院長表彰し、院内で紹介 	



ドック受診者の待合室を整備



オリジナルTシャツの制作

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑥ 増収対策

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医業収益の増加策</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定や国の制度変更に対応し、各種加算の取得に努める。(医師、看護師等との診療報酬制度の情報共有含む) DPC解析ソフトの導入や民間コンサルティング会社による経営診断等を実施。 平均在院日数の適正化を図る。 救急患者の積極的な受入れや病診連携の強化により、入院中心とした医療を提供。 	<p>○診療収益の増 +65,702千円 ←手術、内視鏡検査、各種指導件数の増加など</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院収益 H24: 879,504千円 ⇒ H25: 965,591千円 入院単価 H24: 29,628円 ⇒ H25: 31,611円 外来収益 H24: 540,753千円 ⇒ H25: 520,368千円 1日当たり外来患者数 H24: 310.0人 ⇒ H25: 310.3人 外来単価 H24: 7,121円 ⇒ H25: 6,873円 救急搬送受入件数 H24: 318件 ⇒ H25: 320件 内視鏡検査件数 H24: 1,529件 ⇒ H25: 1,969件 手術件数 H24: 306件 ⇒ H25: 376件 <p>○医業収益の増加策への取組 診療報酬施設基準の届出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助体制加算 H25/5～(整形外科外来にメディカルクラークを配置、医師の事務負担等軽減により診療内容が充実→OP件数の大幅増へ(人工関節手術 H24: 64件→H25: 82件)) ・急性期看護補助体制加算 H25/6～ ・運動器リハビリテーション料(Ⅱ) ⇒ (Ⅰ)へ H25.5～ <p>○薬剤管理指導料(H24: 1,323件 ⇒ H25: 1,410件) ※薬剤師1人当たり(H24: 441件/人 ⇒ H25: 470件/人)</p> <p>○栄養指導件数(H24: 171件 ⇒ H25: 246件) ※栄養士1人当たり(H24: 85.5件/人 ⇒ H25: 123件/人)</p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医業収益の増加策 <ul style="list-style-type: none"> ・年間の入院目標である病床利用率85%には届かなかったが、過去10年で最も高い83.7%を確保し、前年比7千万円の収益増となった。 ○患者負担の適正化 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて適切に手数料の新設等の措置を実施した。 ○未収金対策 <ul style="list-style-type: none"> ・発生防止、回収対策共に新たな手法を導入するなどして、総額を削減することができた。
<p>○患者負担の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料、手数料の新設、改定を実施。 	<p>・手数料の新設</p> <p>予防接種 ロタテックの追加 (H25.8～)</p>	
<p>○診療報酬請求の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 請求漏れの防止や査定減対策に取り組む。 	<p>・査定額: 3,184千円</p> <p>・査定率: 0.214%</p>	
<p>○未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 未収金の発生防止に取り組む。 未収金の回収対策を強化する。 	<p>・未収金発生防止 診療月の2ヶ月後に督促状を送付し、早期回収に努めている。 H24から、時間外の診療で会計窓口が閉まっている際、患者に支払いを約する書面を提出してもらい、未収金発生防止に努めている。</p> <p>・未収金回収対策 医事課との連携を密にし、未払者が来院した際、医事課から総務課に連絡し、総務課職員が面談して早期納付の指導を行っている。H24.7から、未収金回収業務の外部委託を導入し、回収対策の強化を図っている。</p> <p>過年度未収金 H24末: 15百万円 H25末: 11百万円(▲4百万円)</p>	

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑦ 費用合理化対策

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価												
<ul style="list-style-type: none"> ○材料費、備品購入費の削減 ・在庫管理の適正化の徹底 ・価格交渉の強化により医療機器購入費の削減を図る。 ・ジェネリック医薬品の利用を拡大する。 ・共同購入や品目・仕様の共通化 	<p>○平成24年7月から広島国際大学との連携により新たな在庫管理システムを構築、9月から稼動。</p> <p>【参考】◆入・外収益比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>10.57%</td> <td>9.88%</td> <td>▲0.69</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>9.20%</td> <td>9.77%</td> <td>+0.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>※人工関節手術件数増(H24:64件⇒H25:82件)により材料費比率増加</p> <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象物品(診療材料約500品目)について在庫管理が容易かつ正確となった。 ・払出し、配送、発注、検品業務を委託化することで、中材及び病棟看護師の業務が効率化、他部署への応援を強化 ・納入業者への発注業務が効率化し、事務作業が軽減 <p>○医療機器購入に当たっては、コンサルの協力を得て購入機器ごとに目標額を設定し粘り強く価格交渉を実施</p> <p>○コンサルの協力を得て7回の価格交渉を実施(うち2回はメーカーヒアリング)※広島病院と共同実施</p> <p>○ジェネリック医薬品の利用拡大</p> <p>H25. 1 全品目数766, GE薬品目数160, 品目数比率20. 9%, 購入額比率10. 7% ⇒H26. 1 全品目数767, GE薬品目数159, 品目数比率20. 7%, 購入額比率13. 3%</p> <p>○広島病院と共同で備品購入(人工呼吸器) 推定削減効果額: 1, 900千円</p>		H24	H25	増減	薬品	10.57%	9.88%	▲0.69	診療材料	9.20%	9.77%	+0.57	<p>■自己評価理由</p> <p>○経費の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約期間や内容の見直し、コンサルの活用などにより、委託料や機器購入費など一定のコスト削減を実現した。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高額医療機器の整備・更新 ○老朽化した施設設備等の計画的更新
	H24	H25	増減											
薬品	10.57%	9.88%	▲0.69											
診療材料	9.20%	9.77%	+0.57											
<p>○経費の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託内容、契約方法の見直しにより、委託料などの経費を節減する ・オフィスコストの更なる見直しの実施。 	<p>○契約見直し</p> <p>契約更改の都度経費節減に役立つ見直しを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数年契約の導入や、広島病院が委託するコンサルの協力を得て価格交渉を行うなどにより、医療機器保守委託の契約額を縮減 <p>効果額 617千円/年(ヘリカルCT, X線TV装置, 血液ガス分析装置, 全自動血液凝固測定装置など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リースの見直し(リースから購入へ)などによりコスト削減(駐車場ゲート, 医療機器) 													
<p>○施設・医療機器の計画的・重点的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療需要や採算性・効率性・優先順位等に留意した、計画的・重点的な整備を実施。 	<p>○H25年度の機器選定</p> <p>収益向上(超音波診断装置, 介護保険システム 他)</p> <p>患者サービスの向上(診察台, リクライニングチェア, グリップ付身長体重計, 自動視力計 他)</p> <p>医療安全の向上, 院内感染対策等(検査データビューアシステム, 人工呼吸器 他)</p> <p>耐用年数を大幅に経過し、老朽化した機器の計画的更新(経腸栄養ポンプ, 上部消化管用経鼻スコープ, 自動血球洗浄遠心機, 低温滅菌器 他)</p>													

Ⅲ 患者サービスの向上と経営の効率化 経営の効率化 ～ ⑧ 経営機能の強化

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○経営機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略会議の設置・運営など、経営体制の強化を図る。 外部評価委員会からの提言を踏まえた、PDCAによる改善取組継続 経営成績や医療ニーズに応じた予算の重点配分を行い、機動的な予算執行に努める。 弾力的な医療人材の採用・配置。 公募制、任期付職員の採用を実施。 	<p>○平成24年度の運営状況の分析、コンサルによる医療需要調査、モデル病院(美濃市立病院)視察などを踏まえ、平成25年度に向けての重点取組を再構築の上、病院組織目標を設定 (H25.4～全職員(非常勤、委託職員を含む)への説明会を実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 整形外科の診療体制強化(非常勤医師の確保)、リハビリの強化(理学療法士の1名増) 内視鏡検査ステーション設置(経鼻内視鏡の増設・更新、担当看護師(内視鏡検査技師)を専任配置) 地域医療連携の強化【紹介率向上】・がん検診等受入体制の強化【地域の健康づくりへの貢献】(健診料金見直し、専用スペース整備、新規団体との契約締結) 地域包括ケア体制の推進に向けた取組み(退院前カンファレンスの実施等のチームケアモデル事業の実施) <p>○診療情報管理士(新職種)の採用 1名</p> <p>○訪問看護体制を3名→2名に再整理し、看護師1名を内視鏡検査ステーションへ配置(H25.4～)</p> <p>○理学療法士を1名増員し4名体制へ</p> <p>～ 運動器リハビリテーション科Ⅱ ⇒ Ⅰへ、訪問リハビリテーションの拡充</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>○H24年度に再構築した重点取組事項については、25年度も概ね順調に推移</p> <ul style="list-style-type: none"> H25年度の内視鏡検査件数 前年比約3割増 (1日当たり6.2件⇒8.1件) H25年度の手術件数 前年比約2割増 (306件 ⇒ 376件)
<p>○職員の経営参画意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念、経営目標、経営情報、目標数値等を職員に明示し、共有を図る。 バランス・スコアカード等の導入を検討。 院内研修の充実や各種研修の受講機会の拡大を図る。 	<p>○平成24年度の運営状況の分析、コンサルによる医療需要調査、モデル病院(美濃市立病院)視察などを踏まえ平成25年度に向けての重点取組を再構築(再掲) (H25.4～全職員(非常勤、委託職員を含む)への説明会を実施)</p> <p>○全職員で共有した病院組織目標に基づき、全職員の目標申告制度により目標を設定</p> <p>○「みんなで考え、みんなで創る」の考え方の下、職員全員が参加した病院理念・基本方針の再構築</p>	

IV連携強化 ～ ⑨ (2病院)協力状況

	H24	H25
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H25の主な取組	取組に対する自己評価
○医薬品の共同購入	<p>○医薬品の共同購入、品目共通化への取組 ～ 医薬品について、広島病院と共同して購入契約及び価格交渉を実施</p> <p>○ジェネリック医薬品の利用拡大 H25. 1 全品目数766, GE薬品目数160, 品目数比率20. 9%, 購入額比率10. 7% ⇒H26. 1 全品目数767, GE薬品目数159, 品目数比率20. 7%, 購入額比率13. 3%</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>○医薬品については昨年度までの取組を継続して実施した。</p> <p>○広島病院からの診療支援の継続, 専門知識を持ったコメディカルの派遣・研修開催などを継続して実施した。</p>
○医療機能維持・質の向上への協力	<p>○広島病院へ小児科医師を週1回派遣</p> <p>○広島病院から、循環器内科医師(毎日派遣)、呼吸器内科医師(月1回)の派遣</p> <p>○広島病院の臨床工学技士の派遣による医療機器の定期保守点検の実施(2回×3日間)及び各回ごとの研修会の実施(人工呼吸器の取扱い、シリンジポンプの操作説明など)</p> <p>○広島病院からCHDF(持続的血液ろ過透析)治療にかかる人材応援受入れ(1名)、院内教育の実施。</p> <p>○広島病院臨床腫瘍科外来部門への研修視察(2名派遣)</p> <p>○広島病院認定看護師(がん性疼痛看護認定看護師)を講師とした研修会の実施(1回)</p> <p>○広島病院主催の看護部研修会に安芸津病院職員が参加</p> <p>○県立病院看護研究発表会を共催(H26.2.22)</p> <p>○臨床検査科職員の広島病院でのエコー検査実地研修の実施(1名×月2回)</p> <p>○都市型の高度急性期病院である広島病院から、看護師やコメディカルの転入受け入れにより、地域における高齢者医療や在宅医療などを実践する機会を提供</p> <p>○広島病院と共同で備品購入(人工呼吸器) 推定削減効果額: 1, 900千円</p> <p>○病理診断連携についての可能性について協議 H26.2～継続中</p>	

V 決算・目標指標 ⑩ 収支改善・目標指標の達成

	H24	H25
自己評価	△	△
委員評価	△	○



取組項目(計画)	数値目標	取組結果(H25)	達成状況	課題・今後の取組
1. 病床利用率	85%	83.7%	未達成	<p>○課題・特記事項 紹介率など一部の項目について達成できたものもあるが、資金収支や患者数などについては、いずれも目標を達成できなかった。 しかしながら、病床利用率は過去10年で最も高く、資金収支も黒字化には至らなかったものの、計画初年度の▲2億5千万円から約1/10に削減するなど取組効果が表れてきている。</p> <p>○今後の取組 経常収支の黒字化など次期計画での目標達成に向けて、更なる経営改善に取り組む。</p>
2. 紹介率	15%	16.1%	達成	
3. 逆紹介率	15%	20.9%	達成	
4. 認定・専門看護師の養成	毎年5名以上 (広島と共通)	5名	達成	
5. 新規入院患者	120人/月	112人/月	未達成	
6. 訪問看護件数	160人/月	150人/月	未達成	
7. 財務指標	資金収支を黒字化 (H25)	▲30,422千円 (H24: ▲89,054千円)	未達成	